

ニュージーランドの果樹農業及び日本食品事情と 香港の日本食品・果実事情調査報告書

2015 年8月

公益財団法人 中央果実協会

JAPAN FRUIT ASSOCIATION

はしがき

中央果実協会は公益法人として国の果樹対策の実施の一端を担っている一方、海外調査を含む調査研究事業を実施しており、これまで果樹農業情報として各国の果樹生産・流通状況を中心に125冊の報告書を公表するとともに、2ヶ月に一度海外果樹農業ニュースレターを刊行している。

ニュージーランドは、南半球に位置するという地理的条件と亜熱帯から亜寒帯までの気候条件に恵まれている。日本の4分の3の国土面積を有する島国であることにより、我が国と同様温帯果樹を中心に生産しているが、総人口が430万人弱と国内市場が小さいことから、生産者の負担による世界市場を睨んだ輸出を中心とした戦略を基軸とした産業戦略をとっており、果実の場合には品目別に組織された生産者団体と輸出業者との連携による高品質生産体制と市場別の販売戦略をとっている。

当協会はニュージーランドの果実の生産・流通・消費事情については、これまでキウイフルーツ・リンゴを中心にまとめた「ニュージーランドにおける果樹農業実態調査報告書」を1992年8月に刊行し、2008年3月には当時の在外調査員 Vicky Hyde 氏からの報告をもとに「ニュージーランドにおける果実の生産・流通・消費事情等調査報告書」を取りまとめて公表している。

以降の生産状況等については、FAOの公表資料をもとに「世界の主要果実の生産概況」「世界の主要果実の貿易概況」によりフォローしたところであるが、前回調査から7年以上経過し、取り巻く事情の変化も大きいことから、2015年3月に日本からの食品輸出可能性に関する情報収集と併せ現地調査を行い、ニュージーランドの果樹農業についての最新情報を収集し整理した。

また、アジア太平洋地域の果実に関する関係者が参集して毎年9月に開催される「アジア・フルーツコンGRESS」で収集したアジア・太平洋地域での果実市場に関する情報を併せ収録した。

本調査が、様々な場面で活用され、今後の我が国果樹産業の国際化対応の推進等において少しでもお役に立てれば幸いである。

2015年8月

公益財団法人 中央果実協会

副理事長 黒木 幾雄

目 次

はしがき

第1章 ニュージーランドの果樹農業

利用上の注意事項

1. 農業の概要

- (1) 経済概況
- (2) 農業の現状
- (3) 地域別に見た園芸作物の生産状況
 - ① ノースランド
 - ② ベイ・オブ・ブレンティー
 - ③ ホークスベイ
 - ④ ギズボーン
 - ⑤ マルボロ及びネルソン・タスマン
 - ⑥ オタゴ
- (4) 貿易状況

2. 果実産業の概要

- (1) 業界の構造
- (2) 国際競争
- (3) 生産動向と需要及び輸出・入
 - ① リンゴ
 - ② ナシ
 - ③ キウイフルーツ
 - ④ ワイン用ぶどう
 - ⑤ アボカド
 - ⑥ 核果類 (アウトウ、アンズ、モモ、ネクタリン、プラム)

3. 輸出戦略と果樹農場の経営

- (1) 生鮮及び果実加工品の輸出入の推移
- (2) 貿易管理・奨励政策

4. 日本食品市場

5. 参考

第2章 香港の日本食品・果実事情とアジア・フルーツコンGRESS

1. 香港の概要

- (1) 自然条件等**
- (2) 貿易の状況**

2. 香港食品市場の概況

- (1) 概況**
- (2) 小売の構造**

3. 日本産果実に関する意見

- (1) 市場の特徴**
- (2) マーケット戦略と今後期待したい果実製品**
- (3) 日本産果実の市場拡大のためになすべきこと**

4. アジア・フルーツコンGRESS

- (1) 会議内容**
- (2) アジアフルーツ大賞授賞式**

5. 参考

第1章

ニュージーランドの果樹農業

利用上の注意事項

通貨

本報告書で使用する通貨は特に注記のない限りニュージーランド・ドル（NZ ドル）である。2015 年 5 月 20 日時点での為替レートは以下のようになっている。

1 NZ ドル=83.23 円（TTS レート）

1 NZ ドル=0.69US ドル

統計資料

本報告書の中の統計値は主として省庁や国家機関の HP から得ているが、それに限らず、様々な情報源から収集している。このため、情報収集方法の違いや、収集時期のずれによってそれぞれの統計値の間で矛盾が生じる場合がある。

期間

暦年度が使用される場合は 1 月 1 日から 12 月 31 日の期間である。

ニュージーランドの大部分の企業においては 4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までの会計年度で運営されており、本報告書で使用する統計値の多くがこの年度を使用している。FY05 又は 2005/06 年と表示されているものがこれに該当する。

Crown Research Institutes（クラウン・リサーチ研究所）のようなニュージーランド政府部局及び国有企業は特別に 7 月 1 日から翌年の 6 月 30 日までの年度を採用している。

市場情報

ニュージーランドの果実産業は民営事業であることから、民間企業の統計値は公開されていない場合がある。このため、産業情報には商業的に慎重を要すると見做され機密として扱われるものや、貿易業者のグループなど関係者に限定して配布されるものもある。

情報源

インターネット上で入手可能な情報は可能な限りリンク先の URL を記している。

1. 農業の概要

(1) 経済概況

ニュージーランドは温帯に属する国土面積 26 万 7,707 km²、日本の約 4 分の 3、本州と九州を合わせた面積にほぼ相当する国である。赤道を中心に地図を重ねてみると南島の南端はサハリン南部の緯度となり、北島の北端は伊豆半島先端の緯度となる。2013 年 3 月の国勢調査によると総人口は 424 万 2,048 人で、最も人口の多い都市は北島のオークランド（141 万 5,550 人）、次いで首都ウェリントンを含む 4 市（38 万 1,090 人）、南島のクライストチャーチ（34 万 1,469 人）となっている。

日本との時差は標準時で 3 時間、サマータイム実施期間中（9 月の最終日曜日～翌年 4 月の最初の日曜日まで）はニュージーランドの方が 4 時間早くなる。

ニュージーランド政府は 30 年以上の努力により、英国市場への輸出を中心にした農業を主体とした経済から、自由経済下において世界と競争可能なもっと産業化したものへと変えた。産業化された経済のダイナミックな成長は、国民の実質収入を増加させたが、産業分野の技術能力の格差は広がり、底辺の一部はその成長から取り残された。一人当たりの収入は 2007 年まで 10 年連続で増加したが、リーマンショックに見舞われた 2008-9 年には低下した。2014 年には、一人あたりの名目 GDP は 4 万 3,837 米ドル（2014 年）と、日本（3 万 6,332 米ドル）を 2 割以上上回る水準となっており、欧米経済の低迷にもかかわらず対前年比 5.7% の伸びとなっており、農産物価格の高止まりもあり、今後とも日本経済を上回る伸びが見込まれている。

一人当たり GDP の推移 (単位:米ドル)

	2000年	2005年	2010年	2013年	2014年	2015年
日本	37,304	35,781	42,917	38,633	36,332	33,223
ニュージーランド	14,012	27,421	33,085	41,490	43,837	42,017

IMF による 2015 年 4 月の推計

ニュージーランド統計局が発表した GDP 統計によると、2014 年 4 月～2015 年 3 月は 2.5% の成長を遂げた。四半期別に見ると、2014 年 4～6 月期は、一次産業（酪農と石油・ガス生産）の落ち込みを技術サポート及び卸・小売業の伸びがカバーして 0.7% の伸びとなった。7～9 月期には、酪農、石油・ガス生産の好調により 1.0% の伸びとなり、10～12 月期には旅行業、不動産業の好調で 0.7% の伸びになった。2015 年 1～3 月期は道路や橋の建設に伴う技術サポートと建設業の伸びで、干害による農畜産業の低迷、石油・ガス生産の落ち込みをカバーして 0.2% の成長を確保した。

産業別実質 GDP 成長率 (単位:対前年同期 %)

区 分	2014 年 4 月 ～2015 年 3 月	2013 年	2014 年				2015 年
		Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
実質 GDP 成長率	2.5	0.5	1.1	0.7	1.0	0.7	0.2
第一次産業	-1.3	-0.5	2.6	-2.5	4.8	-0.9	-2.9
農林水産業	-2.1	-2.6	1.0	-1.4	4.3	-0.6	-1.4
鉱業	1.3	7.4	7.8	-5.5	6.5	-2.1	-7.8
第二次産業	4.0	1.1	2.9	0.6	0.8	0.0	0.6
製造業	1.5	1.1	-0.4	-0.4	1.9	0.9	-0.3
電気・ガス・水道	-0.4	2.6	0.2	0.1	0.9	-2.8	-0.5
建設業	10.9	0.4	10.2	2.4	-1.1	-0.2	2.5

サービス産業	2.5	0.1	0.4	1.3	0.3	0.9	0.7
卸売業	2.2	2.0	-0.5	1.8	0.2	0.3	-2.1
小売業	4.2	0.4	1.2	1.5	1.8	2.3	2.4
交通・郵便・倉庫	0.7	0.6	0.6	1.0	-1.8	0.5	2.5
情報通信	0.9	-0.8	-0.8	-0.2	3.5	2.1	-2.8
金融・保険	4.4	1.4	0.7	0.7	1.1	1.1	1.2
不動産業	1.2	0.2	0.3	0.7	0.2	1.2	0.1
技術サポート	3.4	-2.3	0.4	4.1	-2.0	0.5	2.1
公的サービス	2.3	0.1	0.8	0.8	1.4	1.2	-0.3
教育	0.6	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1
保健・社会支援	4.6	1.2	1.0	0.7	1.6	0.1	0.6
美術・レクリエーション	2.2	-0.4	0.5	1.2	0.0	-0.2	2.4

1. 四半期の区分は Q1 (1～3月)、Q2 (4～6月)、Q3 (7～9月)、Q4 (10～12月)。

2. 四半期の伸び率は、前期比、季節調整済み。

出典：ニュージーランド統計局

(2) 農業の現状

農業はニュージーランドの基幹産業であるが、生産されている品目には偏りがあり、草地を最大限に利用した牛、羊等の放牧により、牛乳、牛肉、羊肉、羊毛等の畜産物の生産、加工が盛んである。その他、果実（キウイフルーツ、りんご、ワイン用ぶどう）や野菜（ばれいしょ、たまねぎ、かぼちゃ）が主要な生産物で、穀物の生産は少ない。これら園芸作物の主要生産地帯を農業センサスの実施年で州別に整理した。

穀物は主に国内市場向けに生産されている。穀物の主要生産地域はカンタベリー地方で、2012年では、小麦の89%、大麦の71%が生産されている。

野菜は、50種類以上が栽培されており、近年、国内向けのアジア原産の野菜の生産量が増加している。

2012年農業センサスによると、ニュージーランドの農家戸数は58,068戸と、前回のセンサス（2007年）から5千戸余り減少（△8.3%）している。農家の種類別にみると、酪農及び畜産に従事する農家数が全農家の約7割を占め、キウイフルーツやワイン用ブドウ生産など園芸農家がそれに続いている。穀物生産農家数は609戸と前回のセンサスからその戸数は変わらない。

農家の種類別にその中央値によって経営面積を見ると、ニュージーランドの農家全体では50ha、比較的経営規模の小さな肉用牛農家（30ha）、馬農家（7.5ha）を除く酪農及び羊牧農家と穀物生産農家が150ha、比較的経営規模の大きなりんご・なし・ぶどう生産農家（15ha）を除く果樹経営農家が7.5haとなっている。露地野菜農家（15ha）を除く野菜農家や花き生産農家、種苗生産農家の経営規模は5ha未満となっている。

人口も少ないため国内市場が小さいことから、乳製品やキウイフルーツなどの果実は国内生産量のほとんどが輸出に回されている。なお、GDPに占める農業の割合は2000年代初頭には5～6%であったが年々低下し、2005年には4.5%、2014年には3.8%になっている。

主要農産物の生産状況 (単位:トン)

品目名	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年
穀物 計	1,001,297	999,389	1,168,496	1,098,437
とうもろこし	188,812	210,175	211,231	201,659
小麦	444,891	383,262	488,614	447,800
大麦	308,298	367,958	438,789	416,478

菜種	2,684	2,650	2,700	2,800
ばれいしょ	525,000	530,000	550,000	560,000
トマト	75,000	63,074	95,000	94,102
かぼちゃ	161,498	148,000	153,000	146,537
たまねぎ	210,000	228,000	257,000	260,073
果実 計	1,294,484	1,331,840	1,309,458	1,334,090
ぶどう	266,000	328,000	340,000	369,287
りんご	450,000	445,000	448,000	438,952
牛乳	17,010,456	17,339,000	19,129,000	18,883,000
豚肉	47,077	50,151	49,786	39,455
鶏肉	143,077	158,283	169,909	169,078
牛肉	635,289	622,676	603,007	563,749
羊肉	470,906	465,318	448,192	450,075
羊毛	176,300	163,700	165,000	165,000
鶏卵	52,300	51,100	53,500	54,000

出典：FAO「FAOSTAT」

穀物の収穫量及び収穫面積 (単位:トン、ha)

区 分		小麦	大麦	カラス麦	その他 穀類	トウモロ コシ	エンドウ 豆類	その他 豆類
2007 年	収穫量	344,434	335,627	27,531	13,709	185,627	22,053	847
	収穫面積	40,538	51,481	5,773	2,267	17,030	6,273	420
2012 年	収穫量	488,614	438,789	18,118	11,744	211,231	20,148	2,865
	収穫面積	54,751	65,703	3,885	2,063	19,442	6,399	1,167
収穫量の伸び率(%)		141.9	130.7	65.8	85.7	113.8	91.4	338.3
収穫面積伸び率(%)		135.1	127.6	67.3	91.0	114.2	102.0	277.9

出典：Statistics New Zealand 2007,2012 Agricultural Census による。

露地野菜の収穫面積 (単位:ha)

区 分	アスパラガス	ブロッコリー	キャベツ	ニンジン	カリフラワー	調理用 ハーブ	豆類	クマ いも	レタス
2007 年	871	2,247	768	1,320	860	306	724	1,264	1,309
2012 年	820	1,977	793	2,047	852	314	1,186	1,228	1,250
伸び率(%)	94.1	88.0	103.3	155.1	99.1	102.6	163.8	97.2	95.5

区 分	メロン (スィ を含む)	タマネギ	エンドウ豆	ジャガイロ	カボチャ	ホウレンソウ	スイー トコーン	露地 トマト	葉野菜
2007 年	259	4,594	6,791	10,050	1,066	7,774	6,210	757	-
2012 年	273	5,718	6,672	11,578	1,048	6,837	4,664	669	1,051
伸び率(%)	105.4	124.5	98.2	115.2	98.3	87.9	75.1	88.4	-

出典：Statistics New Zealand 2007,2012 Agricultural Census による。

施設野菜の収穫面積 (単位:ha)

区 分	トウガラシ	キュウリ	レタス・サラダ 用野菜	施設 トマト	きのこ	調理用 ハーブ	その他
2007 年	58.5	26.6	22.5	100.5	-	7.1	24.5
2012 年	57.2	26.9	23.8	118.1	15.2	9.0	26.9
伸び率(%)	97.7	101.1	105.9	117.5	-	126.6	109.7

出典：Statistics New Zealand 2007,2012 Agricultural Census による。

露地果樹の作付面積 (単位:ha)

区 分	キウイフルーツ	ワイン用ブドウ	食用ブドウ	りんご	西洋梨	梨	もも	あんず	ネクタリン
2007 年	13,080	29,616	37	9,247	694	97	527	457	377
2012 年	12,757	34,562	43	8,845	617	76	452	434	409
伸び率(%)	97.5	116.7	116.2	95.7	88.9	78.4	85.8	95.0	108.5

区 分	おうとう	すもも	アボカド	フェイジョア	タマリロ	パッションフルーツ	かき	黒すぐり	ブルーベリー
2007 年	520	377	4,004	251	194	47	180	1,155	522
2012 年	619	362	4,149	238	106	31	154	1,408	579
伸び率(%)	119.0	96.0	103.6	94.8	54.6	66.0	85.6	121.9	110.9

区 分	ホーレンベリー	ラズベリー	いちご	オレンジ	グレープフルーツ等	レモン	温州みかん	タンジェリン	オリーブ
2007 年	277	150	216	681	41	332	691	89	2,173
2012 年	259	132	220	696	32	371	691	67	1,657
伸び率(%)	93.5	88.0	101.9	102.2	78.0	111.7	100.0	75.3	76.3

区 分	カシューナッツ	ヘーゼルナッツ	マカダミアナッツ	ウォールナッツ	その他果実
2007 年	310	434	242	498	398
2012 年	142	433	195	574	396
伸び率(%)	45.8	99.8	80.6	115.3	99.5

出典: Statistics New Zealand 2007, 2012 Agricultural Census による。

GDP に占める農林水産業の割合 (単位: 百万 NZ ドル)

	1990 年	2000 年	2005 年	2009 年	2010 年	2013 年	2014 年	2015 年
農林水産業計	5,185	7,279	8,668	9,835	11,071	12,189	11,930	12,240
園芸・果物栽培	—	811	1,006	1,189	—	—	—	—
家畜・飼料農業	—	2,001	2,565	2,631	—	—	—	—
酪農	—	2,193	2,692	3,201	—	—	—	—
その他畜産	—	320	318	295	—	—	—	—
農業関連サービス	—	725	1,020	1,262	—	—	—	—
GDP 合計	72,661	111,203	152,079	184,600	192,855	204,326	209,463	216,101
農林水産業の占める割合	7.1%	6.5%	5.7%	5.3%	5.7%	6.0%	5.7%	5.7%

1. 2009 年までは名目 GDP、2010 年からは 2009/10 価格に換算した価格による。

出典: Statistics New Zealand

農家種類別にみた経営面積 (2012 年、単位:ha、戸)

区 分	-5ha	5-9	10-19	20-39	40-59	60-79	80-99	100-19 9	200-39 9	400-59 9	600-99 9	1000-1 999	2000-3 999	4000 -	12 合計 (戸)	07 年 (戸)
種苗 (施設)	<u>180</u>	30	21	9	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	246	219
種苗 (露地)	<u>339</u>	102	51	36	12	9	9	9	3	3	0	0	0	0	573	798
芝	<u>3</u>	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	-
花き (施設)	<u>186</u>	24	12	6	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	240	267
花き (露地)	<u>126</u>	39	18	9	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	195	330
きのこ類	<u>9</u>	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	18
野菜 (施設)	<u>264</u>	30	15	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	321	462
野菜 (露地)	231	105	<u>120</u>	96	51	33	15	78	54	27	9	9	0	0	828	1,047
ぶどう	288	369	<u>357</u>	216	78	27	36	81	33	15	6	3	0	0	1,506	1,650
キウイフルーツ	693	<u>540</u>	363	159	57	27	15	27	3	3	3	0	0	0	1,884	2,244
ベリー類	93	<u>42</u>	45	18	6	3	3	9	3	0	0	0	0	0	228	246
りんご・洋なし	108	111	<u>132</u>	108	42	21	9	21	6	0	3	0	0	0	555	711
核果類	132	<u>78</u>	30	30	12	3	3	6	3	0	0	0	0	0	300	360
柑橘類	141	<u>84</u>	30	24	6	6	3	0	0	3	0	0	0	0	291	327
オリーブ	204	<u>138</u>	63	21	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	441	438
その他果樹・木の実生産	<u>774</u>	315	165	63	21	15	6	12	0	0	0	0	0	0	1,371	1,602
羊牧畜 (専業)	762	522	624	591	294	216	231	<u>825</u>	1,500	693	633	414	225	153	7,680	7,395
肉用牛牧畜 (専業)	1,458	1,404	1,683	<u>1,872</u>	1,137	630	534	1,368	885	288	216	102	15	12	11,604	13,761
羊・牛牧畜	315	237	<u>345</u>	366	198	111	126	537	927	660	636	555	210	135	5,358	7,554
羊・牛穀物肥育	12	15	18	24	30	18	18	<u>105</u>	150	60	12	6	0	3	471	531
穀類	27	24	45	60	60	21	33	<u>114</u>	147	42	27	6	3	0	609	609
その他作物	432	444	<u>498</u>	459	249	120	84	240	123	21	15	3	0	3	2,688	1,269
酪農	462	105	147	288	642	1,044	1,227	<u>4,098</u>	2,937	735	339	99	18	6	12,150	11,400
鹿農家	60	<u>39</u>	15	9	0	3	0	3	3	0	0	0	0	0	135	-
家禽農家 (鶏卵)	42	51	117	216	102	<u>75</u>	63	189	150	39	33	18	24	6	1,128	1,581
馬	588	<u>459</u>	303	171	45	27	18	33	27	0	0	3	3	0	1,677	1,896
養豚	60	33	<u>39</u>	36	9	6	3	24	9	6	0	0	0	0	225	327
その他畜産農家	186	<u>78</u>	75	48	24	6	9	9	3	3	3	0	0	0	438	768
林業	576	264	552	<u>849</u>	390	222	183	498	429	144	120	102	42	90	4,464	4,863
その他	<u>252</u>	78	66	30	6	3	6	9	3	0	3	0	0	0	459	513
ニュージーランド合計	9,003	5,757	5,961	5,814	<u>3,483</u>	2,646	2,640	8,304	7,401	2,739	2,052	1,323	540	405	58,068	63,336

1. 分類は、2006 年オーストラリア及びニュージーランド標準産業分類による。

2. 中央値は_を付した。

出典:Statistics New Zealand 2012 Agricultural Census による。

(3) 地域別に見た園芸作物の生産状況

ニュージーランドは全土に渡って多くの優れた園芸作物の生産地を有しており、これらは同国の細長く伸びた地形によって区切られている。北島と南島に大きく分けられる。北島では、キウイフルーツ、アボガド、柿、ネーブルオレンジ、レモン、温州みかん、マカダミアナッツ、クマライモなど特徴的な果樹や園芸作物が生産され、南島では、小麦・大麦などの穀類、ジャガイモ、エンドウ豆など主要作物の多くが生産されている。

それぞれの主要な地域別に生産されている作物の特徴を挙げると次の通りである。

1 北島

①ノースランド

ノースランドは、ニュージーランドの北端の州で、全土の5%程度の140万haの面積を有する。2012年には2007年を771ha下回る5,072haで園芸作物が栽培された。250kmに及ぶ半島は海に囲まれ、最も広い部分ではその幅が80kmある。この地域は温暖で湿潤な気候で、冬期にはまれに軽い降霜がみられるものの温暖であり、夏期は亜熱帯性の気候により北東の風と多い降雨量をもたらすことから、比較的気温が高く湿潤である。

ノースランドのほとんどは丘陵地帯で、平地は溪谷部と海岸部に限られ、都市化されているのはごくわずかに限られている。土地面積の45.5%が農業に、11.5%が林業に利用されており、温州みかん及びクマライモは全国生産量の内の多くの割合を占めている。

1920年代にケリケリの周辺で柑橘類の栽培が始まり、多くの生産者はこの周辺に集まっている。柑橘類とキウイフルーツは約900haで栽培されているが、小規模農園がそのほとんどを占めている。近年、アボガドがこの地方の重要な作物になり年々栽培面積が増え、1,547haで栽培されている。

②ベイ・オブ・ブレンティー

ベイ・オブ・ブレンティーは北島の北西海岸に沿って122万4,700haを占め、この約1%が園芸に使用されている。2012年には2007年を1,340ha下回る14,780haで園芸作物が栽培された。この地方は、日照時間が長く温暖な気候である。主要な都市で港湾を持つタウランガは平均降水量1,198mm、平均年間日照時間は2,260時間であり、整備された道路網があることから国際市場への出荷に利用されている。

この地方の土壌は火山灰の層でできており、特に風化して粘土質になった場所は肥沃な土壌となっており、気候条件にも恵まれていることから亜熱帯園芸作物に適した地域となっている。Te Puke及びOpotikiの周辺は乾いた排水の良い土壌条件に恵まれており、約1万haのキウイフルーツ（うちゴールドキウィが2千ha）と2千haのアボガドの産地になっており、全国生産量の過半を占めている。

一方、穏やかな気候と美しい海岸線の風景は、田園的なライフスタイルのニーズや土地開発の強い需要を生み、園芸用土地利用を圧迫する結果となっている。

③ホークスベイ

ホークスベイは北島の東海岸に位置し、およそ141万6,400haで、ニュージーランドの国土面積の5%を上回る。この地方は晴れた日の多い温暖な気候で、夏は20～35℃と比較的気温が高く、冬は平均15℃と温暖でしのぎやすい。

西側に山脈がありこの地方への交通を困難にしているが、この山脈が西風を遮っている。ヘレタウンガ及びルアタニファの平野の沖積層土壌は非常に肥沃で、乾燥した夏の条件下でも地下の帯水層からの豊富な水が灌漑に使われている。

ホークスベイは園芸活動に関わっている土地の割合が非常に高く、2012年には2007年を1,296ha上回る20,615haで園芸作物が栽培され、その大部分が平坦で肥沃なヘレタウंगा平野にある。この州は肥沃な土壌と温暖な気候によって主要な果樹産地となっており、ワイン産業向けのブドウとともに、ニュージーランドの仁果類と核果類の供給を担っている。また、エンドウ豆やタマネギの生産も盛んで首都のウェリントンへの一大供給地となっている。

ニュージーランドのリンゴの約6割がこの地域で生産されており、また、もも、ネクタリンなどの核果類の全国生産量の約50%もこの地域で生産されている。

生鮮果実の供給に加えて、ホークスベイの果樹園は地元の缶詰、果汁生産その他の加工業者へも大量の果実を供給している。この州には、Heinz-WattiesやMcCainといった世界レベルの食品メーカーとともに、地元発祥の中規模で革新的な加工業者が多数存在しており、アジア、日本及びオーストラリア向けの輸出市場の開拓に成功している。Pipfruit New Zealand（ニュージーランド仁果類協会）はこの地域では、Hawke's Bay Fruit Growers Association（ホークスベイ果実生産者協会）とともに強い存在感を誇っている。

④ギズボーン

東海岸のホークスベイの北方にギズボーン市を中心としたギズボーン地域がある。温暖な気候や適度の降雨量に恵まれていることからハウレンソウ（全国の作付面積の35%）やスイートコーン（全国の作付面積の53%）などの露地栽培が盛んである。

また、この地域は重要な柑橘生産地域でもある。2012年には2007年を737ha下回る8,653haで園芸作物が生産され、そのうち約1,150haで柑橘類が作付けられており、全国の6割の柑橘類果樹園（ネーブルオレンジの全国の作付面積の79%、温州みかんの53%、レモンの47%を占める）を有している。柑橘類栽培地域では1月（夏）の気温が13～24℃で、6月（冬）には5～14℃に低下する。この地域は強風に見舞われることがあることから、果樹園は風よけの壁となる防風林で囲み、2～5haの「間仕切り」の中に植えられる傾向がある。この「間仕切り」は周辺よりも気温を押し上げ、より暖かい微気象を作り出す効果も有している。

ブドウはほぼ1,700haに作付けされ、成長を続けるワイン産業に原料供給を行っており、ブドウ畑の景観はこの地域の特徴でもある。

2 南島

⑤マルボロ及びネルソン・タスマン

ニュージーランド南島の北部に位置するこの州は、北島にマルボロ入江群を控え、西と南を山に囲まれた低丘陵地で、その間に肥沃な川沿いの平地が散在している。気候は少し暑く、日照が多い。年間降水量は1,000mm未満から、2,000mmを超える範囲でばらつきがあり、主嶺山脈の裾野では降水量が多く、ネルソン市やブレナイム周辺の低地では比較的降水量が少ない。乾燥期は1月から3月の間で、この期間の強い風が火災の危険を非常に高めている。

ネルソン地域は都市人口が多いことから、農業及び園芸の活動は相対的に低いですが、隣接したタスマン地方からの搬入される農産物および園芸作物の加工が行われている。

マルボロ地方は園芸が主要産業で、2012年には2007年を5,587ha上回る24,923haで園芸作物が生産されている。この地域は、現在ニュージーランドで最も伸びているブドウ生産地帯であり全国の約65%にあたる22,627haでブドウが作付けられている。タスマン地方では、りんご、ブドウ、ベリー類、キウイフルーツ、洋なしなどが4,700ha余りが作付けされている。

園芸産業は古くから Waimea 平野と Moutere 山地に集中しており、加工は例えば、Stoke にある ENZA の仁果類果実処理施設のような地元の施設で行われ、輸出はネルソン港から直接積み出される。

この地方は園芸で集約的な土地利用を行っているため農場の規模は平均よりも小さい。

⑥オタゴ

オタゴはニュージーランドで3番目に大きな地方で、約319万9,000haある。オタゴ地方は地形学的に非常に変化に富んでおり、黄土土壌が無数の入り組んだ水路のある川沿いの平野と盆地に広がっている。タイエリ川とクルサ川の地域が特に肥沃である。南部アルプス地方は大陸性の半乾燥気候になっていて、夏に最も乾燥し、冬は最も寒い。

2012年には2007年を1,721ha下回る5,685haで園芸作物が生産されている。セントラル・オタゴは核果類の重要な産地で特にオウトウ、アンズ及びネクタリンなどが1,000haを超える面積で栽培されている。

クロムウェル、アレクサンドラ、ワナカ地域及びクインーンズタウン近くのギブソン溪谷周辺のブドウの作付けは急激に増えたものの近年頭打ちとなり1,577haになっている。

ニュージーランドの各州における主要園芸作物の分布（単位：ha）

ノースランド

作物名	2007 年	2012 年
アボガド	1,325	1,547
クマライモ	1,239	1,177
キウフルーツ	634	574
柑橘類	324	295
ブドウ	121	84

オークランド

作物名	2007 年	2012 年
タマネギ	1,531	1,620
ジャガイモ	1,316	1,440
ブドウ	411	311
キウフルーツ	309	363
オリーブ	290	250

ワイカト

作物名	2007 年	2012 年
ジャガイモ	2,022	2,070
タマネギ	1,477	1,840
キウフルーツ	782	726
ベリー類	340	342
仁果類	268	181

ベイオブプレンティ

作物名	2007 年	2012 年
キウフルーツ	10,249	9,912
アボカド	2,210	2,081
柑橘類	119	106

ギスボーン

作物名	2007 年	2012 年
ホウソウ	2,773	2,410
ブドウ	1,812	1,687
スイートコーン	1,798	2,490
柑橘類	1,003	1,151
キウフルーツ	284	326



ウェリントン

作物名	2007 年	2012 年
ブドウ	860	895
オリーブ	254	216
仁果類	151	41

マナワツ・ワンガヌイ

作物名	2007 年	2012 年
ジャガイモ	1,578	1,260
ホウレンソウ	841	240
タマネギ	319	390

ネルソン・タスマン

作物名	2007 年	2012 年
仁果類	2,722	2,762
ベリー類	925	688
ブドウ	805	828
キウフルーツ	614	497

マルボロ

作物名	2007 年	2012 年
ブドウ	17,169	22,627
スイートコーン	778	600
エンドウ豆	676	550
オリーブ	240	134

オタゴ

作物名	2007 年	2012 年
ブドウ	1,642	1,577
核果類	977	1,046
仁果類	495	475
ジャガイモ	168	150

カンタベリー

作物名	2007 年	2012 年
エンドウ豆	4,705	3,620
ジャガイモ	4,273	5,750
ブドウ	1,683	1,550
スイートコーン	941	260
ベリー類	736	1,008
タマネギ	686	1,040
オリーブ	437	240

ホークスベイ

作物名	2007 年	2012 年
仁果類	5,408	5,306
ブドウ	4,930	4,940
ホウレンソウ	3,117	3,250
スイートコーン	2,411	1,050
エンドウ豆	1,060	2,130
核果類	895	854
タマネギ	517	660
ジャガイモ	491	590
オリーブ	317	321
キウフルーツ	220	222

(4) 貿易状況

農畜産物の輸出額を見ると 2005 年から 2010 年 3 月末にかけて 1.4 倍となり、2015 年 3 月には 2.1 倍に拡大し約 296 億ドルとなっている。ニュージーランドの輸出品の中で農林水産物の輸出競争力は高く、ニュージーランドの全輸出額に占める割合は、農畜産物の国際価格の上昇もあり、2005 年の 59.2%から 2015 年には 70.1%となった。内訳を見ると、乳製品が最も多く、ニュージーランドの輸出総額の 25.5%を占め、次いで食肉及び調整品が 12.1%を占めている。

主要品目の輸出額に占める割合

(単位:百万 NZ ドル、%)

品目名	2005 年	2010 年	2015 年	商品輸出に占める割合	伸び率
食肉・調整品	4,577	5,058	6,194	12.1	135.3
乳製品	4,924	8,841	13,042	25.5	264.9
羊毛	674	567	786	1.5	116.6
皮革	230	163	538	1.1	233.9
果実	1,212	1,489	1,758	3.4	145.1
ワインなど加工食品	1,593	2,788	3,350	6.5	210.3
その他農産品	345	838	1,063	2.1	308.1
農畜産物の計	14,378	20,653	29,567	57.8	205.6
魚介類	1,134	1,231	1,380	2.7	121.7
木材及び林産物	1,984	2,638	3,530	6.9	177.9
農林水産物の計	18,120	25,363	35,857	70.1	197.9
機械	1,628	1,647	2,177	4.3	133.7
衣服	618	576	613	1.2	99.2
原油	389	2,126	1,201	2.3	308.7
その他非農産品	9,750	12,529	12,485	24.4	128.1
輸出額の計	30,618	40,672	51,159	100.0	167.1

出典：Statistics New Zealand

ニュージーランドの最大の輸出相手国は、オーストラリアである。しかし、近年、中国向けの輸出が急激に拡大しており、肩を並べるまでに至っている。中国向けの輸出のほとんどを農産品が占めており、とりわけ食肉、魚介類の輸出額の伸びが大きい。

主要輸出相手国別輸出額

(単位:百万 NZ ドル、%)

	2005 年	2010 年	2015 年	伸び率
オーストラリア	6,507	9,651	8,650	132.9
中国	1,587	4,109	8,587	541.1
米国	4,295	3,556	5,134	119.5
日本	3,446	3,070	2,955	85.8
韓国	1,861	1,414	1,733	93.1
英国	1,436	1,567	1,525	106.2

出典：Statistics New Zealand

中国向けの主な輸出品の輸出額

(単位:百万 NZ ドル、%)

	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	伸び率
乳製品	2,195	2,094	2,745	5,654	2,833	129.1
木材及び林産物	1,096	1,099	1,386	2,048	1,644	150.0
食肉・調整品	154	251	597	999	1,021	663.0
羊毛	304	407	385	349	447	147.0
魚介類	206	274	366	407	434	210.7

出典：Statistics New Zealand

2. 果実産業の概要

(1) 業界の構造

ニュージーランドの園芸農家は、伝統的に小規模で多数の国内市場向け個人経営の果樹園で構成され、敷地外にある選果、荷造り場を利用して協力して輸出市場に供給してきた。過去 50 年くらいで規模の大きな企業が台頭して市場を支配するようになった。

Heintz-Watties, ZESPRI International, ENZA, Delica global, Cedenco Foods New Zealand などが代表的な企業である。

ニュージーランドの園芸作物生産者を代表するのは Horticulture New Zealand (ニュージーランド園芸作物協会、Level 4, Co-operative Bank Building, 20 Balance Street, Wellington, 6011, <http://www.hortnz.co.nz>) である。その前身の New Zealand Fruitgrowers Federation (ニュージーランド果実生産者組合連合会) は果実生産者を基盤にした団体で、約 4,000 人の生産者が会員となり土地面積に基づく賦課金を活動基金として納め、業界全体の利益に関する一般的な問題を扱っていた。

この団体は特に食品の安全問題に焦点を当て、ニュージーランド果実の品質の向上に関する活動をしており、持続可能な園芸の推進を通して、環境保護の面で一定の役割を果たしてきた。また、業界内での教育訓練を奨励し、研究開発を推進するとともに、ニュージーランド産果実の国際市場への参入推進に積極的に関わってきた。

2005 年、連合会は Vegetable and Potato Growers' s Federation (Vegfed) (野菜及び馬鈴薯生産者連合会) 及び Berryfruit Growers Federation (ベリー生産者連合会) と合併し、Horticulture New Zealand (ニュージーランド園芸作物協会) となり、全ての園芸部門を代表する組織になった。現在の会員数は 5,500 人の商業生産者で、22 の合同作物部会 (果樹関係 14、野菜関係 4) を傘下に持って活動している。

活動資金は、商品賦課金令 (1990 年 9 月 7 日法律 127 号) の下で生産者が作物販売額 100 ドルあたり 15 セント支払う賦課金によるものである。合同作物部会のいくつかはニュージーランド園芸協会とは独立して賦課金を徴収している。

ニュージーランド園芸協会は、生産者から選ばれた 8 名の役員と 18 名の職員により、首都ウェリントンにある事務所を拠点に活動しており、生産者を代表して政府機関に対して業界に影響するような政策決定過程に関して働きかけを行ったり、戦略的な企画提案 (後述するアボガドで実施している「ニュージーランドのアボガドを世界へ」プログラムなど) を提供したりしている。また、研究開発分野への資金提供も行っている。

ニュージーランドの園芸産業は伝統的に研究を重視しており、主として国営のクラウンリサーチ研究所 (1990 年に旧国立科学産業研究省 (DSIR) から分離して設立され、部門別組織になっている) により担われている。Hort Research 社は、園芸分野に携わる主要なクラウンリサーチ研究所傘下の組織であり、Crop & Food 社 (主として野菜と食品加工) 及び ESR 社 (環境モニタリング分野) の協力を得ている。

これらの組織は民間企業や個人生産者と協力して長期間にわたる育種計画を立て、特に主要輸出作物であるリンゴとキウイフルーツの品種改良を行っている。この分野で注目すべき成果も上がっており、リンゴの「ブレイバーン」と「ロイヤル・ガラ」は世界的に栽培されている。また、ZESPRI ブランドのゴールド・キウイフルーツでも成功している。

このほか、園芸産業に関する様々な地域的な協同組合や団体があり、地域の自発的な事業を資金援助し、政府に対して全国的な政策や地域的な政策を提案したり、戦略的な企画提案を提供している。

以下に、ニュージーランド園芸作物協会が分類した 22 の生産グループを挙げる。

- ① アスパラガス ([/about-us/product-groups/#](#))
- ② アボカド (<http://www.nzavocado.co.nz/online/welcome.csn>)
- ③ カシス (<http://blackcurrant.co.nz/>)
- ④ ブルーベリー (<http://www.blueberriesnz.co.nz/>)
- ⑤ ボイセンベリー (<http://www.boysenberry.co.nz/>)
- ⑥ 柑橘類 (<http://www.citrus.co.nz/>)
- ⑦ 輸出用かぼちゃ (<http://www.nzbsc.com/index.php>)
- ⑧ フェイジョア (<http://www.feijoa.org.nz/>)
- ⑨ 生鮮トマト (<http://www.tomatoesnz.co.nz/>)
- ⑩ キウイベリー (<http://www.nzkiwiberry.com/>)
- ⑪ キウイフルーツ (<http://www.nzkgi.org.nz/>)
- ⑫ なし ([/about-us/product-groups/#](#))
- ⑬ たまねぎ (<http://onionsnz.com/>)
- ⑭ パッションフルーツ (<http://www.passionfruit.org.nz/>)
- ⑮ かき (<http://www.nzpersimmons.org.nz/>)
- ⑯ ピップフルーツ (<http://www.pipfruitnz.co.nz/>)
- ⑰ ジャがいも (<http://www.potatoesnz.co.nz/>)
- ⑱ 加工野菜 ([/about-us/product-groups/processed-vegetables/](#))
- ⑲ いちご (<http://www.strawbsnz.co.nz/>)
- ⑳ 核果類果実 (<http://www.summerfruitnz.co.nz/>)
- ㉑ タマリロ (<http://www.tamarillo.com/>)
- ㉒ ニュージーランド野菜 (<http://www.freshvegetables.co.nz/>)

(2) 国際競争

農業は、ニュージーランド経済にとって 1800 年代中期にヨーロッパ人の入植が行われた頃から重要な役割を担ってきた。ニュージーランドが地理的、気候的に北半球と逆であるという優位な条件及び優れた地質を利用するとともに、同国の環境に優しく、緑豊かなイメージを販売活動に活かしている。また、地理的に孤立していることから他国に被害をもたらす農産物の病害虫の多くが存在せず、植物検疫に力を入れていることから 1 世紀にわたり、航空機や船舶による移動の拡大にもかかわらず、比較的安全な状態を保っている。

一方、激烈な競争、大量の過剰生産物とニュージーランド・ドルの高い為替レートは、りんご、キウイフルーツ、柑橘類などを含む広範な產品に強大な圧力となつてのしかかっている。ニュージーランドは主要市場までの距離が長いため、燃料の高騰から上昇している航空運賃も問題になっている。

最近の世界の果実市場の供給過剰の要因としては、次のようなものがある。

- ・他の南半球の競合国による大量の果実生産、特に南アメリカで生産されるリンゴ及びキウイフルーツ
 - ・例えば、SmartFresh など、長期保存のための技術の採用が輸出市場で増加し、伝統的にニュージーランドが持つ北半球とは逆の季節という優位性の低下
 - ・北半球の在庫の持ち越し水準が高くなり、国際市場や国内での競争の激化
- これらの要因は、今後も続くと思われる。

(3) 生産動向と需要及び輸出・入

主要な品目について、2014 市場年（2015 収穫暦年）の状況を米国農務省の報告、ニュージーランド園芸作物輸出協議会報告を下に整理すると以下の通りである。

①リンゴ

リンゴの 2014 市場年の登録収穫面積は 8,642ha と前年を 200ha(2.5%)余り上回り、2000 年代前半からの作付面積減少傾向を逆転した。作付面積の増加傾向は今後 2～3 年は継続するとみられている。品種別に見ると、アジア市場での売れ行きの良い Pacific Queen, Envy, Pink Lady, 高着色系の Royal Gala の生産面積が増加している。

リンゴの 2014 市場年の生産見込み量は昨年 10 月の予測値と同様 540,500 トンと前年を 54,100 トン(11%)上回ると見込まれている。これは、2014 年が着果量の多い表年に当たること、225ha の果樹園が生産に参加したため 55,000 トンの生産増が見込まれたためである。しかしながら 2014 年 10 月以降、

- ・2014 年 11 月に 7 つの嵐により、ネルソン地帯で雹と風の被害があったこと
- ・11 月の 2 つの雹害と 1 月のさらに破壊的な雹害で、ホークスベイ地帯の多くの果樹園で輸出クラスの収穫量が重大な減少となった

1 月の作物収穫量調査では、輸出量は 2 万～3 万トン減少するとの結果になった。しかしながら、雹害による被害はそう大きくはなく限定されていることから、2015 年の生産量全体及び輸出量に影響のある事柄は、次の通りである。

- ・昨年の夏と秋の好天により、果実の大きさと色彩が良いこと。
- ・成長期全体は昨年度より 2 週間遅いことから、収穫期間が圧縮される。このことと期間雇用労力の供給不足により Braeburn では収穫残が生じ、廃棄物となる。
- ・ジュースとなる果実価格低下が、生産者の意欲の低下を促し、生産量が減少する。

消費量は生産量の増加に伴い前年を 5,000 トン上回る 7.7%増の 70,000 トンが見込まれている。また、加工向けは前年を 37.9%上回る 156,500 トンに達するとともに、前年を 2.3%上回る 315,000 トンの輸出、前年と同じ 1,000 トンの輸入が見込まれている。

リンゴの生産、供給

区 分	2 0 1 2収穫年		2 0 1 3収穫年		2 0 1 4収穫年		対前年 変化率 (%)
	2013 年 1 月		2014 年 1 月		2015 年 1 月		
	米統計	新情報	米統計	新情報	米統計	新情報	
作付面積 ha	8,400	8,372	8,400	8,429	8,700	8,642	102.5
収穫面積 ha	8,300	8,275	8,300	8,325	8,600	8,550	102.7
商業生産 t	515,800	515,813	472,500	469,893	525,000	525,000	111.7
非商業生産 t	15,000	15,500	15,000	15,500	15,000	15,500	100.0
生産量 t	530,800	531,313	487,500	485,393	540,000	540,500	111.4
輸入量 t	900	873	1,000	1,000	1,000	1,000	100.0
供給量計 t	531,700	532,186	488,500	486,393	541,000	541,500	111.3
国内生鮮消費量 t	67,700	67,650	65,000	65,000	70,000	70,000	107.7
輸出量 t	321,600	322,136	310,000	307,893	325,000	315,000	102.3
加工向け t	142,400	142,400	113,500	113,500	146,000	156,500	137.9
総供給量 t	531,700	532,186	488,500	486,393	541,000	541,500	111.3

出展:GAIN Report NZ1503

品種ごとのリンゴの作付面積及び梨の作付面積

市場年	2005 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	対前年変化率(%)
収穫暦年	2006 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	
Braeburn	2,464	1,740	1,589	1,504	1,381	1,352	97.9
Royal Gala & sport	2,872	2,423	2,369	2,386	2,337	2,410	103.1
Cox	354	236	203	178	150	134	89.3
Fuji	875	970	934	906	832	837	100.6
Granny Smith	322	256	256	246	240	219	91.3
Cripps Pink / Pink Lady	287	434	446	459	443	461	104.1
Jazz	440	983	943	905	869	855	98.4
Pacific Beauty	250	127	120	113	92	84	91.3
Pacific Queen	306	291	351	456	622	730	117.4
Pacific Rose	642	399	396	390	379	364	96.1
Envy		174	272	285	315	346	109.9
Other Varieties	184	437	445	544	769	850	110.5
リンゴ作付面積計	8,996	8,470	8,324	8,372	8,429	8,642	102.5
梨作付面積計	722	473	441	448	403	407	101.0
リンゴ+梨の合計	9,718	8,943	8,765	8,820	8,832	9,049	102.5
Braeburn の割合	27.4%	20.5%	19.1%	18.0%	16.4%	15.6%	-
Royal Gala の割合	31.9%	28.6%	28.5%	28.5%	27.7%	27.9%	-

出展:GAIN Report NZ1503

②なし

なしの 2014 市場年の登録収穫面積は 4,074ha と前年を 4ha(1%) 上回った。生産量も 14,375 トンと、前年を 805 トン (5.9%) 上回った。消費量は 10,200 トンが見込まれており、前年を 7% 下回る 5,000 トンの輸出、3,600 トンの輸入が見込まれている。

③キウイフルーツ

キウイフルーツは 1904 年に中国から導入され、その後、1970 年代に大幅な成長を遂げ、1978 年から 1984 年の間にはベイ・オブ・ブレンティーで 2 万 ha を超える作付けが行われ、供給に対応するために選果・荷造り場やその他の生産基盤にかなりの投資が行われた。現在でも生産量の 79%がこの地域で生産されている。

2010 年の 11 月にキウイ潰瘍病がニュージーランドで確認され、2011 年春から北島全体のキウイ生産地帯へ流行した。2015 年の 4 月には 87%のキウイ農園でバクテリアの感染が認められた (1 年前には 76%)。長期的には品種改良による抵抗性品種の開発と土壌タイプ別の栽培技術の改良が行われるものと見込まれている。

病害の主な影響は、商業生産品種として作付けられてきたゴールド品種の元である「ホート 16a」の急速な作付転換である。2011 年以前は約 2,700ha あったものが、2014 年には 560ha に 2015 年ではわずか 200ha の収穫面積となった。このことは、FOB 価格ではゴールドキウイが緑種に比べて FOB でみると重量当たり価格が倍以上であったことから、この分野では特に影響が大きい。生産者レベルでみても緑よりゴールドの方が 20-40%反収が多いことから影響が大きい。

Zespri 社は「ホート 16a」よりもキウイ潰瘍病に強く収量も高い「G3 種」を既に育成しており、「ホート 16a」や「緑種」からの転換が急速に進んでいる。2011 年以前は数百 ha しかなかった「G3」が約 4,700ha に達している。これは 2015 年の全作付面積 13,874ha の

34%近くである。ここ2年のキウイフルーツの栽培面積は14,000haを上回って高止まりし、ゴールド品種の「G9」が154ha、緑の2品種で8,820haとなる予想である。

2015年から2018年の生産動向を見ると、新たなゴールド品種の「G3」の普及の影響で2015年の生産量は2014年と同様395,000トン前後であるが、2018年には435,000トンから495,000トンに達するものと見込まれる。

2011年のゴールド品種の輸出量は全体の25%であったが、2018年には全体の43-45%程度になるものと見込まれる。ゴールド品種の生産量の増加により、生産量が少なかったため過去2年のトレイ当たり(3.6kg)12ドルあった超過収入が、今後4年かけてトレイ当たり7ドルの水準に調整されるものと見込まれる。

キウイフルーツの生産、供給、需要量

市場年開始時期	2012年1月		2013年1月		2014年1月	
	2012	前年との変化量	2013	前年との変化量	2014	前年との変化量
作付面積 ha	13,000	-4.2%	13,565	4.3%	13,728	1.2%
収穫面積 ha	12,000	-8.0%	11,500	-4.2%	11,500	0.0%
生産量 Ton	385,194	-11.3%	340,000	-11.7%	365,000	7.4%
輸入量 Ton	596	-0.7%	961	61.2%	950	-1.1%
生産者数 人	2,662	-1.6%	2,636	-1.0%	2,556	-3.0%
選果場箇所	63	-6.0%	59	-6.4%	46	-22.0%
冷蔵倉庫箇所	79	-4.8%	76	-3.8%	77	1.3%
総供給量 Ton	385,790	-11.3%	340,961	-11.6%	365,950	7.3%
輸出量 Ton	364,790	-12.0%	318,651	-12.6%	345,000	8.3%
国内消費量 Ton	21,000	5.0%	22,310	6.2%	20,950	-6.1%
総供給量 Ton	385,790	-11.3%	340,961	-11.6%	365,950	7.3%
単収 Ton/ha	32.1	-3.5%	29.6	-7.9%	31.7	7.4%

出展:GAIN Report NZ1503、Zespri Annual Review 2011/2012

品種ごとの輸出状況

区分	品種	2011	2012	2013
輸出金額 (千NZD)	グリーン	639,365	632,363	608,657
	ゴールド	398,053	404,468	190,148
	計	1,043,311	1,042,786	803,821
輸出量 (Ton)	グリーン	297,885	279,582	275,688
	ゴールド	100,665	83,837	41,159
	計	400,817	364,790	318,651
FOB 価格 (NZD/Ton)	グリーン	2,146	2,262	2,208
	ゴールド	3,954	4,824	4,620
	計	2,603	2,859	2,523

出展:GAIN Report NZ1503

品種ごとの輸出状況及び2019年までの輸出見込(3月31日)

区分	品種	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
輸出量 (百万トレイ)	緑	83	78	77	78	80	75	75	75
	金	27	23	12	18	31	45	50	50
	計	111	101	89	97	112	121	126	126
FOB 価格	緑	7.7	8.1	8	8.9	8.3	8.4	8.4	8.6

(NZD/Torei)	金	14.2	17.4	16.7	17.2	14.8	14.2	13.8	13.6
	計	9.3	10.3	9.1	10.5	10.2	10.6	10.6	10.6
輸出額 (百万 NZD)	緑	639	632	612	689	666	628	632	643
	金	389	405	198	315	461	641	692	682
	計	1034	1043	815	1015	1140	1281	1336	1338

出展:Statics New Zealand 及びニュージーランド一次産業省

主要市場毎の輸出状況 (年度区分 6 月末、トン、百万 NZD、%)

市場	2 0 1 2		2 0 1 3		2 0 1 4	
	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額
EU	189,891	317.6	177,925	285.7	162,832	305.3
日本	73,078	325.3	68,354	262.4	72,035	238.5
中国	35,831	94.1	37,564	107.3	40,909	123.0
台湾	26,556	70.3	31,524	81.5	25,979	69.4
韓国	28,130	77.9	17,210	43.2	17,329	44.3
オーストラリア	18,829	45.4	17,823	42.2	16,444	33.4
米国	19,783	27.0	10,356	21.4	9,686	21.5
香港	9,147	28.2	8,925	27.9	7,072	21.5
合 計	430,775	1,045.8	399,351	934.1	383,983	930.7
対前年変動率	5%	9%	-7%	-11%	-4%	-0.4%

④ワイン用ぶどう

2015 暦年のニュージーランドのワイン用ブドウについては、36,000ha の作付面積から、355,000 トンの収穫量、255.6 百万リットルのワイン生産量が見込まれている。ぶどうの生産量、ワインの醸造量とも前年を 20% 下回る。

2014 暦年を振り返ると、天候に恵まれ 1997 年からの長期平均収穫量の 8.6 トン/ha を 45% 上回る 12.5 トンの平均収穫量となった。2015 年は天候に恵まれないだけでなく、全国の 63% の作付面積を占めるマルボロ地方で進行中の干害により平均収穫量が 9.9 トンに後退した。

それに加え、白ブドウ品種のサビグノン・ブランクに生産が集中しており、作付面積で見ると 2006 年には 39% であったものが、58% を占めるまでになっている。これはニュージーランドの気候条件に適合しているからで、2014 暦年のぶどう生産量の 72% がサビグノン・ブランクとなっている。過去 3 年間この傾向が変化する兆しはなく、ぶどう生産量の 88% を白ぶどうが占めている。

ぶどう園の増加は 2012 年から 2014 年の間は前年並みとなったが、今後は再び増加基調となることが見込まれている。2014 年にマルボロ地域で 1,000ha の新たな作付が報告されている。これは、最も大きなワイン会社がマーケット状況が良いことから生産余力を拡充するために樹園地造成に乗り出したもので、2000 年代前半の小規模投資家の 10-20ha の農園造成によって引き起こされた作付面積増加と同様の背景によるものである。

ブドウ品種ごとのワイン用ブドウ作付面積 (単位: ha)

品種名	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
Sauvignon Blanc	8860	10491	13988	16205	16910	16758	20270	20015	20027
Chardonnay	3779	3918	3881	3911	3865	3823	3229	3202	3211
Riesling	853	868	917	979	986	993	770	787	787

Pinot Gris	762	1146	1383	1501	1763	1725	2485	2403	2412
その他白品種							509	502	489
白品種計							27263	26909	26926
Pinot Noir	4063	4441	4650	4777	4773	4803	5388	5488	5569
Merlot	1420	1447	1383	1369	1371	1386	1234	1255	1256
Syrah							387	408	423
Cabernet Sauvignon	531	524	516	517	519	519	305	301	297
その他赤品種							309	299	298
赤品種計							7623	7751	7843
その他	2348	2520	2592	2705	3241	3393	449	525	741
合計	22616	25355	29310	31964	33428	33400	35335	35185	35510

出展:GAIN Report NZ1501、ニュージーランド第一次産業省データ

ワイン用ブドウ生産量の動向及びワイン醸造量

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
醸造所数	530	543	585	643	672	698	703	698	699	700
生産面積 (ha)	22616	25355	29310	31964	33428	33400	35335	35182	35510	36000
収量(ton/ha)	8.2	8.1	9.7	8.9	8	9.8	7.6	9.8	12.5	9.9
平均価格 (NZD/Ton)	2022	1981	2161	1629	1293	1239	1359	1688	1650	1650
果汁量 (千ト)	185	205	285	285	266	328	269	345	445	355
生産量 (百万リットル)	133.2	147.6	205.2	205.2	190.0	235.0	194.0	248.4	320.4	255.6

出展:GAIN Report NZ1501、ニュージーランド第一次産業省データ

ニュージーランドの2014年の国内消費量の見込みは90.5百万ℓで、過去4年と同様90～91百万ℓの間と見込まれている。輸出量は2013年を11%上回る194.1百万ℓ、2015年は順調に伸びると215百万ℓに達すると見込まれている。

輸出量の増加は在庫量の減少を招く。しかしながらニュージーランドワインの需要量の増加は、ターゲットを絞った市場キャンペーンのみでなくニュージーランド産を好む中間層の経済状態の向上によるところが大きい。2015年のワイン輸出の直面する最大の問題は、ニュージーランド通貨のオーストラリア通貨に対する交換率の向上である。

品目別に見ると、2014年の輸出量の91%が赤、白が8%で残りが発泡及びアルコール添加ワインとなっている。

バルクワインが全体の29%を占め、これは過去3年の平均と同様であった。2015年の頭初2ヶ月の輸出量は前年の26%増になったが、バルクワインの輸出量占める割合が前年の30%～46%に増加した。このため、FOB価格は前年の同時期に比べて平均19%低下した。

2015州各年の生産者に提示されているブドウ価格は2014年と同様であることから、バルクワインの2015年頭初の価格低下がワイン価格の将来の価格低下に繋がると悲観されてはいない。

ワイン需要量と輸出量

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
国内販売量 (百万ℓ)	51.2	45.3	51.2	58.0	62.2	61.8	56.7	50.3	51.5	52.0
ワイン輸入量 (百万ℓ)	38.8	42.7	38.6	31.9	33.2	28.1	34.6	39.9	39.0	39
国内供給量 (百万ℓ)	90.0	87.9	89.7	89.9	95.4	89.9	91.3	90.3	90.5	91.0
人口見込(百 万人)	4.21	4.25	4.28	4.33	4.37	4.40	4.43	4.48	4.55	4.60
一人当たり NZ ワイン消 費量(ℓ)	12.2	10.7	12.0	13.4	14.2	14.0	12.8	11.2	11.3	11.3
一人当たりワ イン全消費量 (ℓ)	21.4	20.7	21.0	20.7	21.8	20.4	20.6	20.2	19.9	19.8
輸出量見込 (百万ℓ)	64.7	84.1	98.7	128.5	157.2	168.1	176.6	175.8	194.1	215
輸出額(百万 NZDFOB)	610.8	759.9	903.3	1014.0	1088.7	1135.0	1216.2	1254.9	1351.6	
平均見込価格 (NZD/ℓ)	9.44	9.03	9.15	7.89	6.93	6.75	6.89	7.14	6.96	
輸出額(百万 US\$FOB)	396.6	560.1	632.6	652.0	788.2	900.8	986.8	1028.5	1119.7	
平均見込単価 (USD/ℓ)	6.13	6.66	6.41	5.07	5.02	5.36	5.59	5.85	5.77	
総供給見込 (百万ℓ)	172.0	190.3	234.8	237.1	223.2	263.1	228.6	288.3	359.4	294.6
総需要見込 (百万ℓ)	154.7	172.1	188.4	218.4	252.5	258.0	267.9	266.1	284.6	306.0
供給不足量 (百万ℓ)	17.3	18.2	55.3	18.7	29.4	5.1	39.3	22.2	74.8	-11.4
在庫バランス (百万ℓ)	93.6	111.8	167.1	185.8	156.4	161.5	122.3	144.5	219.2	207.8

出展:GAIN Report NZ1501、ニュージーランド第一次産業省データ

⑤アボカド

アボカドは亜熱帯の作物であることから主として北島で栽培され、総栽培面積は3,661haとなっており、ノースランド(1,547ha)とベイ・オブ・ブレンティアー(2,081ha)が主要栽培地域である。生産者数は約1,700人である。1996年から作付面積がかなり増加し、同年の946haから、2007年には4,004ha、2012年には4,149haまでになっている。Hass種は8月下旬から3月末まで輸出用に収穫されている。輸出用のもののうちの80%がオーストラリア向けで、シンガポール、日本、タイ向けが続いている。

2014年4月にアボガド産業評議会是一次産業省の協力の下で、「ニュージーランドのアボカドを世界へ」と呼ばれる新たな5カ年間のプログラムを樹立し、2014年6月から、生産性の向上、能力及び販売強化に重点的に取り組んでいる。このプログラムには次の5つのプロジェクトが含まれており、この計画の下で、2023年までに生産性を3倍の12トン/haに、産業収益を4倍の70百万ドルから280百万ドルに引き上げることにしている。

この計画の下での総投資額は 8.56 百万ドルで、その内第一次産業省が 4.28 百万ドルを負担することになっている。

プログラムの内容は次の通りである。

- ・アジアとニュージーランドの市場への参入と成長
- ・堅実で安定したアボカドの供給
- ・効率的なサプライチェーンの構築
- ・荒地からの供給
- ・情報ポータル的確率、知識の移転及び伝達

アボカドの生産状況 (単位：トレイ=5.5kg、トン)

	2000/01	2005/06	2010/11	2011/12	2012/13	2013/14
輸 出 量 T o r a y	1,400,000	2,406,022	1,721,698	3,713,122	1,217,184	3,136,968
国 内 市 場 T o r a y	712,000	1,294,168	1,034,090	1,774,375	1,191,204	1,280,625
加 工 向 け T o r a y	180,000	476,225	280,549	693,781	159,838	479,234
生 産 合 計 T o r a y	2,292,000	4,176,415	3,036,337	6,181,278	2,568,226	4,896,827
生 産 合 計 T o n n e	12,606	22,970	16,700	33,997	14,125	26,933

出展：New Zealand Avocado Growers' Association & Avocado Industry Council Ltd,
Annual Report 2014

⑥核果類果実(オウトウ、アンズ、モモ、ネクタリン、プラム)

核果類果実は約 2,300ha の果樹園で栽培されている。オウトウの作付面積の増が輸出量の伸びに繋がるとともに、スモモの新品種が供給されたことから主な生産地域のセントラル・オタゴ（作付面積の 61%）とホークスベイ（作付面積の 32%）で作付面積が伸びている。

オウトウは、金額的に見て核果類果実の中で最も重要な作物である。マルボロから 50 トン未満と少量であるがクリスマス前にオウトウが輸出されている。ホークスベイからの核果類果実の輸出は極少量であるが、クリスマス前のオウトウ生産が過去 5 年に 2 倍に増え 155 トンに達している。このオウトウはニュージーランドの国内消費向けであるが、早期輸出を確立するためには重要な位置を占め、アジア市場を開拓するための鍵となるものである。

セントラル・オタゴはニュージーランドの 93%のオウトウが育っており、55%が輸出されている。アンズの輸出もセントラル・オタゴにとっては重要である。現在生産量の 36%しか輸出されていないが、販売金額の 50%を占める。同様に生産量の 54%のオウトウの輸出が、販売金額の 71%を占めている。

核果類果実の栽培面積の推移 (単位：ha)

区 分	ホークスベイ		オタゴ		全 国		
	2007	2012	2007	2012	2007	2012	2012/2007
オウトウ	16	20	423	499	520	619	119.0
アンズ	99	102	278	269	457	434	95.0
モモ	387	314	68	81	527	452	85.8
ネクタリン	231	240	108	143	377	409	108.5
スモモ	162	178	64	54	377	362	96.0
合 計	895	854	941	1,046	2,258	2,276	100.8

出展:Statics New Zealand

核果類果実の販売金額 (2013/14 シーズン)

	アンズ	オウトウ	ネクタリン	モモ	スモモ	合計
国内市場	7,550,492	11,229,216	12,091,329	10,043,758	6,786,600	47,701,395
輸出	7,414,421	27,989,801	25,591	489,732	273,571	36,193,116
合計金額	14,964,913	39,219,017	12,116,920	10,533,490	7,060,171	83,894,511
国内市場率	50.5	28.6	99.8	95.4	96.1	
輸出額率	49.5	71.4	0.2	4.6	3.9	
輸出の上位 三カ国	オーストラリア	台湾	ニュージーランド	シンガポール	米国	
	EU	中国	フィジー	ロシア	フィジー	
	米国	タイ	大洋諸国	オーストラリア	ニュージーランド	

出展：ニュージーランド核果類果実協会

3. 輸出戦略と果樹農場の経営

(1) 生鮮及び果実加工品の輸出入の推移

ニュージーランドの園芸作物の輸出総額は、2015年6月末で前年を4.8%上回る39.7億NZ\$に達するものと見込まれている。輸出額の伸びはキウイフルーツとワインの輸出量が大きく伸びたことによる。2019年には46.8億NZ\$に達するものと見込まれている。

品目別に見ると、リンゴ及び洋なしは輸出量、価格とも前年を下回ったことから10%減の496百万NZ\$と見込まれている。ポジティブな面は新しい高価格品種の作付け拡大の要望の増加と、アジア市場の拡大が続いていることである。

各年6月30日	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
輸出量 (百万C)	15.4	18	18.3	16.9	17.9	19.3	19.1	19.9
FOB 価格 (\$/C)	22.5	26.8	29.85	29.15	29.8	30	31.65	32
輸出額 (百万\$)	347	484	547	493	533	578	605	636

注：1 carton は 18.0kg

キウイフルーツは19%増の10.2億NZ\$に達するものと見込まれている。キウイフルーツ潰瘍病の影響の反動でゴールドキウイフルーツの量が増え、輸出量が15%増加した。グリーンキウイフルーツの輸出量は若干の減少が見込まれるものの、今後もゴールドキウイフルーツの増加は続くと思込まれる。

各年6月30日		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
輸出量 (百万 Tray)	Green	81	80	77	79	78	75	75	75
	Gold	25	17	15	28	41	49	50	50
	計	107	98	94	107	120	125	126	126
FOB 価格 (\$/Tray)	Green	7.8	8	8.5	8.6	8.3	8.4	8.5	8.7
	Gold	16	17	17.2	15.1	14.3	13.9	13.7	13.8
	計	9.8	9.6	9.9	10.3	10.4	10.6	10.6	10.8
輸出額 (百万\$)	Green	634	636	654	677	650	629	637	653
	Gold	403	293	265	420	589	679	685	691
	計	1,046	934	931	1,109	1,251	1,320	1,334	1,357

注：1 Tray は 3.6kg

生鮮及び加工野菜の輸出はニュージーランド通貨のオーストラリアドル及び日本円に対する高値、及びタマネギとハウレンソウの気候条件による輸出量減のため、3.9%減の641百万NZ\$となるものと見込まれている。

各年 6 月 30 日	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
生鮮野菜								
輸出量(千トン)	295	314	306	290	298	298	314	314
輸出額(百万 \$)	212	225	219	214	225	230	246	250
加工野菜								
輸出量(千トン)	203	207	224	215	220	220	220	220
輸出額(百万 \$)	375	375	387	369	363	365	369	376
輸出額 (百万 \$)	587	600	606	583	588	595	615	625

注：加工野菜には、冷凍野菜、乾燥野菜、乾燥豆、野菜調整品、野菜ジュースを含む。

ワインは輸出量の増加で 3.2%増の 13.6 億 NZ\$に達するものと見込まれている。経済状況の悪いオーストラリアなど一部の市場で輸出単価が安いバルクワインの割合が増加した。しかしながら 2019 年にかけて価格は回復するものと見込まれている。

各年 6 月 30 日	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
輸出量 (百万 L)	178	169	186	207	210	215	215	220
FOB 価格 (\$/L)	6.56	7.11	7.1	6.59	7	7.15	7.22	7.33
輸出額 (百万 \$)	1,171	1,202	1,321	1,363	1,468	1,536	1,551	1,613

(2) 貿易管理・奨励政策

①販売システム

1990 年代まで、ニュージーランドの果実販売及び輸出事業は主として中央集権化された機関により実施されてきた。しかし、経済戦略の変化により、多くの産業で規制緩和が行われた。販売促進活動のほとんど、特に業界による活動は、重要な輸出市場に焦点が当てられ実施された。

ニュージーランドの園芸作物の輸出入は New Zealand Horticultural Export Authority (HEA) (ニュージーランド園芸作物輸出協議会、Level 4, Co-operative Bank Building, 20 Balance Street, Wellington, 6011、<http://hea.co.nz>) が監視している。この組織は、New Zealand Horticulture Export Authority Act (ニュージーランド園芸作物輸出協議会令) によって 1987 年に設立された法定機関で、その基本職務はニュージーランド園芸作物の効果的な輸出販売戦略の推進である。

議長とほか 1 名の役員が政府指名で、生産者組織であるニュージーランド園芸協会から指名された 2 名、ニュージーランド園芸作物輸出業者評議会から指名された 1 名の、計 5 名の役員により運営されている。協議会の運営経費は、輸出業者の登録料及び生産業者の FOB 価格に応じて支払う料金で負担され、政府からの助成金は無く、40 万ドル/年程度の費用で運営されている。

この組織は高品質で安全な製品の輸出を管理し、ニュージーランドの果実及び野菜の市場参入へのロビー活動を行い、また輸出業者を統制している。HEA は輸出ライセンス又は輸出許可を与えることによって業界毎の生産グループが輸出市場戦略に従って策定した規格に当該ニュージーランド産品が適合することを保証している。

協議会の輸出組織外の産品については、輸入国の植物検疫制度に適合することのみが求められている。

協議会の生産グループ資格は任意であり、現在 11 の生産グループが傘下となっている。

- ・アボカド産業協議会
- ・カシス ニュージーランド協会
- ・ニュージーランド ボイセンベリー協議会

- ・ニュージーランド かぼちゃ協議会
- ・ニュージーランド 栗協議会
- ・オーストラリアへのキウイフルーツ生産グループ
- ・ナシ ニュージーランド
- ・柿産業協議会
- ・核果類果実ニュージーランド
- ・ニュージーランド タマリロ輸出協議会
- ・ニュージーランド トリュフ協会

11 の協議会生産グループの輸出総額は 183 百万ドル (2013 年) に達しており、かぼちゃ、オーストラリアへのキウイフルーツ、アボカド、核果類果実の順である。

なお、輸出業者はニュージーランド園芸作物輸出業者評議会 (HEC) を組織して、輸出業者の関心のある事柄の情報交換と、各種産業評議会への業界代表推薦を行っている。

代表的な果実ごとの業界団体のニュージーランド国内及び国際市場への販売促進と流通の活動に関わっている。これらの団体はそれぞれの輸出販売戦略の下で運営されているが、ニュージーランド果実の新市場での優位な位置を占めるため、共同で販売促進活動を行っており、消費者の注目を集めるとともに、環境に配慮した持続可能な園芸活動から生産される、高品質で安全な果実生産国というニュージーランドの一般的なブランドイメージの育成に貢献している。

②仁果類

りんご、なしについては、生産者が役員となっているニュージーランド仁果類協会が商品賦課金令に基づく賦課金を徴収しており、2013 年 11 月からは、販売生産物 (国内向け、輸出向けも同額) キロ当たり 1.5 セントを上限とするという総会決定を下回る 1 セントの徴収を行っている。

1999 年の The Apple and Pear Restructuring Act (りんご及び洋なし再構築令) によって New Zealand Apple & Pear Marketing Board (ニュージーランドりんご・洋なし販売公社) は ENZA 株式会社となり、生産者が運営する民間の組織になった。2001 年に行われた仁果類業界の規制緩和により、ニュージーランド仁果類協会に登録している他の企業も仁果類果実の販売と輸出に参入し、海外企業に販売することが可能になった。

当初、この動きは歓迎されたものの、近年、生産者は業界に対して合理化、輸出市場での一貫した販売促進を行うよう求めた。このことは、中国産のように市場に大量にあふれている商品に対抗して、高品質な産品として差別化するためにはニュージーランドの仁果類果実の優位性を確保することが特に重要と考えられている。最近のりんご業界の分析では「この業界がさらに発展しようとするなら、ENZA が独立した輸出業者に影響力を行使できるようにし、すべての産物を無理矢理受け容れることのないようにすることが必要である」としている。

1992 年に輸出向け仁果類果実に導入された ENZA ブランドは、現在世界で最も有名な果実のブランド名となっている。この時点で、1,400 万カートンの仁果類果実が輸出されていた。ENZA は現在「ブレイバーン」、「ロイヤルガラ」、「ふじ」など 45 品種を超えるリンゴ、洋なしを輸出するとともに、5 品種のキウイフルーツを輸出している。

2003 年に ENZA はニュージーランド最大手の卸売企業の Turners & Growers と合併した。ENZA は現在北米、ヨーロッパ大陸、英国及びアジアなど、すべての主要市場に子会社ないしは戦略的パートナーを持ち、50 カ国以上へ輸出している。例えば、英国代理店 Worldwide

Fruit の 50%の株式は ENZA が保有している。ここは仁果類果実の流通と販売促進を専門にしているが、核果類果実、アボカド、ソフトフルーツ（アンズ、イチジクなど）、キウイフルーツなど他の商品も扱っている。Worldwide Fruit は英国小売業界ではこの分野を先導する企業である。

2005 年の Growing Futures の調査によると、りんごの Jazz 品種の登場により、りんごの育種、生産と販売促進活動に大きな変化が起こったとされる。この品種はニュージーランドの競争上の優位性を保護しながら、この品種の市場拡大のため革新的な手法をとっている。Jazz は、1996 年に初めてニュージーランドで栽培され、米国(1999 年から)、フランス(20000 年)の商業用果樹園での栽培について ENZA へのりんご供給契約を結ぶ果樹栽培者に対してライセンスが供与されている。北半球、南半球の両方でリンゴを生産することにより ENZA は市場に高品質の Jazz リンゴを通年供給することができる。商品の周年供給を要求する大手スーパーマーケットの顧客に対する供給では特に重要なことが証明された。

この調査ではニュージーランドは「ロイヤルガラ」と「ブレイバーン」の開発から貴重な教訓を得たとしている。即ち、これらの品種はニュージーランドで育種選抜されたが、他の競合相手による栽培に対する権利の保護がされていなかったのである。そればかりではなく、キウイフルーツという名前についても業界では保護されていなかったのである。これらの教訓が ZESPRI ゴールドの開発で活かされた。

植物品種権の導入によって育種家はロイヤリティによる収入を得られるだけでなく、品種の所有権を維持できるようになった。これによりニュージーランドは世界的な規模で事業を行う革新的な方法等を探求する動機付けとなり、また地元の技術革新によって利益を得る方法を進める結果となった。通常、多年生植物に対して行われているロイヤリティは、果樹園に販売する苗木に対して課すが、この場合は果樹園から販売する果実に対して課せられている。

③キウイフルーツ

ニュージーランド キウイフルーツ生産者協会は 1993 年の産業再構築の一部として設立されたキウイフルーツ生産者の声を産業自体や政府の政策決定に活かすための組織で、商品賦課金令の下で生産者から拠出された賦課金(キウイフルーツの FOB 価格の 0.9%)により、ニュージーランド園芸作物輸出協議会の中のキウイ生産グループとして活動してきている。

1999 年に制定されたキウイフルーツ産業再構築法の結果、ZESPRI グループ社(従業員 250 名で、キウイフルーツの現・元生産者がオーナー)がオーストラリア以外へキウイフルーツを輸出できる唯一の会社となった。オーストラリアへは、ニュージーランド園芸作物輸出協議会令により 14 業者が輸出業者として登録されている。

ZESPRI の商標は、ニュージーランドのキウイフルーツ販売促進のための統一ブランドとして定着している。果実の高品質さを強調し、適切に管理された販売促進プログラムによってニュージーランドのキウイフルーツを国際市場でブランド化した。

④アボカド

アボカドの場合、輸出業者は業界を公式に代表する Avocado Industry Council（アボカド産業評議会）に登録する必要がある。2014-15 シーズンの許可を受けた輸出業者は 8 社で、許可を受けた荷造り業者は 15 である。これらの業者は、生産者、選果場及び輸出業者のための規則と手順だけでなく、品質及び輸出等級の規格も詳しく定められているアボカド品質マニュアルとアボカド輸出販売戦略に従っている。Avocado Industry Council は輸出業者と生産者から構成され、役員構成は前者が 2、後者が 8 となっており、生産者主導の下でアボカドの輸出販売促進のための基本方針を定めている。

また、生産者から選ばれた 8 名が役員を務めるニュージーランド アボカド生産者協会が商品賦課金令の下で生産者から拠出された賦課金（青果及び加工用果実の出荷額の 3%、輸出用についてはトレイ＝5.5kg 当たり 50 セント）を徴収する団体となっており、2013/14 年の登録生産者数は 769 名である。生産地域は極北（収穫面積 478ha、輸出量 448 千トレイ）、中北部（746ha、68 千トレイ）、ベイオブプレントニー（2,197ha、254 千トレイ）地域が中心で、生産量の 7 割以上の 19,308 トン、93 百万ドルをオーストラリア中心（89.5%）に輸出している。

⑤核果類

核果類は 1987 年 11 月から輸出許可対象になっており、Summerfruit New Zealand（ニュージーランド核果類協会）は 2000 年に設立されて以来、核果類果実の輸出を担当している。この協会は、商品賦課金令の下で生産者から拠出された賦課金により、ニュージーランド園芸作物輸出協議会の中の核果類生産グループとして活動してきており、オウトウ、モモ、アンズ、ネクタリン及びスモモを合わせて 1,400ha の果樹園で生産している 205 人の商業生産者がその負担を行っている。

この協会は、認可された核果類果実輸出業者を管轄し、これら輸出業者が品質マニュアルと輸出販売戦略に従った果実を生産者及び選果場から調達し輸出を行っているかを管理している。

⑥柑橘類

柑橘類については、ニュージーランド 柑橘類生産者協会が商品賦課金令の下で生産者から拠出された賦課金（マンダリン、グレープフルーツ、レモン、ライム、オレンジ、タンジェリンの青果キロ当たり 1 セント、加工向け柑橘類はキロ当たり 0.3 セント）を徴収する団体となっている。生産地域はプレントニー、ギブソン、ノースランド地域が中心で、作付面積は 1,000ha、400 名の生産者が年 50 百万ドルの生産を行い、内 6 百万ドルを輸出している。

他の果実と同様に柑橘類の生産、加工及び販売は、垂直統合した販売業者と生産者団体の連携によって行われている。Zeafruit はそのうちの 1 つで、4 つの契約選果場を有する主要生産地の 300 を超える柑橘生産者を傘下に抱えている。生産者との契約には基づかない業績ベースで運営されており、レモン、ネーブルオレンジ、温州みかんの国内市場開拓、日本、韓国及びオーストラリアでの販売も行っている。国内市場販売では、Charli's ブランドのライセンスにより同国で最も広く知られた生鮮果実のブランドになった。

作物別に見たニュージーランド園芸作物輸出協議会の関係組織 (2013 年 3 月)

作物名	組織	構成員	運営財源
1. Asparagus	NZ Asparagus Council	生産者、荷造業者、輸出業者	CLA 賦課金 生産地登録料
2. Avocados	Avocado Industry Council(AIC) www.nzavocado.co.nz *NZ Avocado Growers Association *Avocado Exporters Council(AVEC)	生産者、荷造業者、輸出業者 *生産者 *輸出業者	生産者：CLA 賦課金、登録料 輸出業者：輸出業務料
3. Blackcurrants	Blackcurrants NZ Ltd(BCNZ) www.blackcurrant.co.nz	生産者、荷造業者、輸出業者	CLA 賦課金
4. Boysenberries	NZ Boysenberry Council	生産者、荷造業者、輸出業者	登録料
5. Blueberries	Blueberries NZ Inc.(BBNZ) www.blueberriesnz.co.nz	生産及び輸出業者	CLA 賦課金 登録料
6. Chestnuts	NZ Chestnut Council www.nzcc.org.nz	生産者	会員費
7. Citrus	NZ Citrus Growers Inc.	生産者	CLA 賦課金 登録料
8. Feijoas	NZ Feijoa Growers Association www.feijoa.org.nz	生産者	CLA 賦課金 登録料
9. Fresh Tomatoes	Fresh Tomato Product Group	生産者	CLA 賦課金(野菜)
10. Fresh Vegetables	*Fresh Vegetable Product Group *NZ Vegetable & Potato Growers Federation(VegFed)-now operating under Horticulture NZ www.hortnz.co.nz	生産者、荷造業者、輸出業者	CLA 賦課金(生鮮・加工とも、国内消費向け及び輸出向けとも)
11. Kiwifruit	NZ Kiwifruit Growers Inc.(NZGKI) www.nzkgi.org.nz *Kiwifruit Exporters to Australia(KETA)	生産者 *オーストラリアへの輸出許可業者	CLA 賦課金
12. Nashi Pears	Nashi Asian Pear Product Group(NAPPG) *Nashi Asian Pear Exporters Committee	生産者、荷造業者、輸出業者	CLA 賦課金
13. Olives	Olives NZ www.olivesnz.org.nz	生産者	CLA 賦課金
14. Onions	Onions NZ www.onionsnz.com	生産者、輸出業及び賛助者(供給業者)	自主的な賦課金
15. Passionfruit	NZ Passionfruit Growers Association www.passionfruit.org.nz	生産者	CLA 賦課金

16.Persimmons	Persimmon Industry Council www.nzpersimmons.org.nz *Persimmon Association of NZ	生産者、荷造業者、輸出業者 ＊生産者	CLA 賦課金 登録料
17.Pipfruit	Pipfruit NZ Inc. www.pipfruitnz.co.nz	生産者、荷造業者、輸出業者	CLA 賦課金
18.Potatoes	*Potato Product Group *NZ Vegetable & Potato Growers Federation(VegFed)-now operating under Horticulture NZ	生産者、荷造業者、輸出業者	VegFed への CLA 賦課金
19.Strawberries	Strawberry Growers NZ(inc)2005	生産及び輸出業者	CLA 賦課金
20.Squash/Kabocha	NZ Kabocha Council www.nzkabocha.com *NZ Buttercup Squash Exporters Association	生産者、荷造及び輸出業者	登録料
21.Summerfruit	Summerfruit NZ www.summerfruitnz.co.nz	生産者、荷造業者、輸出業者	CLA 賦課金 登録料 市場ごとのプログラム料金
22.Tamarillos	Tamarillo Growers Association www.tamarillo.com *NZ Tamarillo Export Council(NZTEC)	生産者 ＊輸出業者	CLA 賦課金
23.Truffles	NZ Truffle Association www.southern-truffles.co.nz	生産及び輸出業者	会員費
24.Tree Crops	NZ Tree Crops Association www.treecrops.org.nz	生産者	会員費

出展：ニュージーランド園芸作物輸出協議会

4. 日本食品市場

経済状況や在外日本人の目から見た日本産果実の販売可能性について、JETRO オークランド事務所で林道郎所長から、また日本食品の最大取扱業者の TOKYO FOOD CO.,LTD の販売部門である Japan Mart を訪ね、店長・販売員から、売れ筋などについての情報を収集した。このほか、ニュージーランド品種保護当局を訪問し果樹の登録動向の情報を収集した。

ここ 20 年経済が順調に成長していることから物価は上昇しているものの給料も上がっており、経済状況は非常に好調である。JETRO オークランド事務所で入手した、JETRO が日系企業を対象に調査しているデータから、2013 年の製造業のマネージャークラスの毎月の基本給をみると、アジアで高賃金であることが有名なシンガポールを大幅に上回り 6,999 米ドル（83.2 万円）となっている。製造業の作業員クラスでも 3,351 米ドルと非常に高く、旺盛な購買力が経済成長を下支えしているといえる。

また、勤務時間についてみると、朝が早く、定刻（4 時、5 時）で仕事を切り上げその後はスポーツで汗を流す、家族とともに自宅で夕食を楽しむという生活スタイルとのことであった。ちなみに、大手スーパーの営業時間は朝 7 時から夜 8 時までとなっていた。

食品の価格で見ると、町中の立ち食いバーガーでも 7~8 ドル（700~800 円）、店内に入ると 1 品が安くて 20 ドル（2 千円）程度となっており、日本の 2 倍の価格帯で経済が回っている感じである。（なお、価格も高いが、食事の量も日本の 2 倍はあり、その点で見るとほぼ食品は似たような価格であるといえる。一方、調味料など加工品についてはそのほとんどが輸入品であり、価格は高いといえる。）

日本産の果実の輸出可能性についてみると、生鮮物は検疫条件が厳しく無理そうであるが、「ゆず」などの柑橘を中心に「加工品」（シロップ漬け、ジュース、スムージー、果実酒、パウダー、チップス）は検疫の問題が無いので、日本料理ブームでもありレストランなどの業務用輸出の可能性は非常に大きいと思われる。これは、JETRO 駐在員も同意見であったが、ニュージーランド品種保護当局の職員の感触も同様であった。

林所長によれば、経済は絶好調で、人口が少ないこと（457 万人）もあって人材は売り手市場で、日本を始め各国でも人気職種の代表である JETRO の職員採用にも人を集めるのに苦労する。在留邦人数は 1 万 3 千人で半分が永住者、残りの大半が留学生で企業駐在員は少数（日系企業数は 141 社）。子女教育は日本人学校がないことから、現地校+補修校で行っている。経済全体で見ると質の高い 1 次産品輸出に依存する小規模経済が特徴となっており、GDP ベースでは 7.4%でしかない第 1 次産業からの産品に付加価値をつけることがポイントとなっているとのことである。

日本食品を取り扱うのは 3 社（既掲、JFC：キッコーマンの子会社、メド・イ・ニッポン：個人経営の零細業者）で、輸入割当制度もなく、生鮮食品についても検疫で輸入できないもの以外は全て輸入されている。一方、検疫については何故日本からの輸入がダメなのか理由の詳細が明らかでなく不透明との感じを持っているとのこと。具体的には川魚は全て輸入が出来ず、チリのサーモンは良いが日本産のサケは輸入できないとのこと。

Japan Mart 社は 3 つの店舗をオークランドに展開しており、今年の 6 月には市内に 1 つ店舗を開設する予定。その後、首都であるウェリントンに進出し、そのうちに南島のクライストチャーチにも店舗を設ける予定とのこと。顧客については、大半が現地人で、日本食を広げることが会社のテーマとのこと。ちなみに訪問した店舗は 9m×27m 位で、冷凍食品が真ん中に、ラーメンなどの乾物が奥にあり、調理用具なども置かれている。

(2) 出張者

副理事長 黒木 幾雄
情報部長 藤定 光太郎

(3) 宿泊ホテル

Novotel Christchurch Cathedral Square
52 Cathedral Square, Christchurch, 8140, New Zealand
Tel:(643)372-211 Fax : (643)372-212

Mercure Sydney Potts Point
226 Victoria Street, Potts Point, Sydney, 2011, New South Wales, Australlia
Tel:(612)9397-1777 Fax : (612)9397-1737

(4) 入手資料

ニュージーランド概要 (2013-2014 オークランド日本経済懇談会)

ニュージーランド概況 (ジェトロ・オークランド)

Plant Variety Rights Office (Ministry of Business, Innovation & Employment)

オーストラリア概況 (ジェトロ・シドニー)

在オーストラリア日系企業活動実態調査の結果に見られる経営実態、景況感
(ジェトロ・シドニー)

オーストラリアにおける農産物および日本食品市場の動向 (ジェトロ・シドニー)

郊外の食品スーパー（8時から5時まで営業）



果樹苗木などの生産販売所
（8時半から5時まで営業）



上記の店の果物売り場



サンデーマーケットでの農家の果物販売状況



果物の品揃え



住宅街の大手スーパーの果物売り場



南部商業地の大手スーパーの果物売り場



レトロの観光用の市電（レストラン前駐車場）



フードコートの中の日本食店（日曜 午後8時）



レストラン街の日本レストラン（すし店）



開店は9時 営業時間は午後6時までか

コンビニ（夜10時まで営業）



クライストチャーチ国内線ターミナルの日本食店



オークランド中心街の日本レストラン



オークランド市街



林 JETRO オークランド事務所長と



オークランド国内線の日本レストラン



オークランド中心街にある日本食品店
(2万アイテムを販売)



クライストチャーチ政府ビジネスセンター
300人が勤務(地震により郊外へ移転した)



政府ビジネスセンター内の品種保護当局担当官と



スーパーで購入したキウィベリー



大手スーパーのフードコートの状況（昼 12 時）



洋梨（ニュージーランド産、左）と中国産梨



クライストチャーチ郊外の果樹園



アボカドと桃



第2章

香港の日本食品・果実事情とアジア・フルーツコンGRES

1. 香港の概要

(1) 自然条件等

香港は、中国の最南東部に位置し、新開、九龍、香港島を含む 235 の島で構成され、総面積 1,104.4 km²で、東京都の半分、札幌市とほぼ同じ面積を有する。人口は 717 万。中国本土からの移入者もあり、人口の増加傾向は続いている。また、年間 5,430 万人もの観光客等が訪れており、実質的な購買人口は 1,000 万人を超えると推計される。

日常語は、主に広東語であるが北京語も使われている。現地のビジネスマンは、英語と北京語を話す。直接、香港の企業とのコミュニケーションをとるには広東語が最適である。携帯電話の販売数量は人口の 2 倍、スマホを一人一台持ち、ほとんどの人がサービス産業に従事する生活スタイルである。

2014 年の一人あたりの名目 GDP は 4 万 175 米ドル（2014 年）と、日本（3 万 8142 米ドル）を 1 割上回る水準となっており、欧米経済の低迷にもかかわらず対前年 1.5% の伸びとなっており、中国経済が下支えして今後とも日本経済を上回る伸びが見込まれている。

一人当たり GDP の推移 (単位: 米ドル)

	2000	2005	2010	2012	2013	2014
日本	37,304	35,781	42,917	46,530	38,491	38,142
香港	25,578	26,554	32,421	36,590	37,777	40,175

(2) 貿易の状況

香港の特徴は、自由貿易港であるため関税を始め輸入に関する障壁が極めて低く、中華圏や世界的物流の中継地となっていることである。貿易統計を見ると、再輸出が商品輸出全体の 98.3% を占め、香港の輸入と輸出は互いに連動しているといえる。

再輸出が商品輸出全体の 98.3% を占め、また、輸出の地域別の内訳を見ると中国向けが 54.1% となっており、中国市場へのゲートウェイとしての位置づけを持つことである。

従って、日本食品についても、香港市場での消費だけではなく、中国市場との流通にどう関連しているかを念頭に置きながら分析することが必要となっている。

香港の果実の輸出入 (2013 年)					
品目名	輸入量 t	変化%	品目名	輸出量 t	変化%
ドリアン	293,544	10.3	ドリアン	278,513	12
オレンジ	221,613	16.2	ロンガン	181,527	-15
ロンガン	182,020	-12.0	ぶどう	126,703	8
ぶどう	167,224	7.0	マンゴ- & マンゴ スティン	68,230	-12
りんご	114,469	-6.2	オレンジ	45,169	-27
マンゴ- & マンゴ スティン	95,512	-5.5	りんご	40,260	-33
バナナ	65,086	-17.2	桃、プラム & ネクタリン	23,665	38
なし	63,253	-32.7	チェリー	20,041	-14
桃、プラム & ネクタリン	42,135	11.2	マンダリン	8,159	-17
メロン	38,643	5.2	レモン & ライム	7,332	-2
チェリー	32,027	-30.1	なし	7,214	-29
レモン & ライム	30,543	22.4	バナナ	7,044	-59
その他	189,169	-21.2	その他	81,947	-17
合計	1,535,238	-4.1	合計	895,804	-7

2. 香港食品市場の概況

(1) 概況

香港の外食産業の 2013 年総売上額は前年比 3.5% 増の約 970 億香港ドルとなり、年平均 5% で成長。このうち中華料理の占める割合は 47.1% で、和食を含む各国料理が 27.9%、ファーストフードが 17.6% を占めている。

香港の日本食レストラン店舗数の推移を振り返る。日本食レストランの本格的な展開は 60 年代から始まった。当初は、輸入や流通の関係もあり、青果物、水産品などは香港で調達して日本食を作っていたが、70 年代に入り、日系企業が多数進出するようになってきたからはレストランの進出速度も速まり、提供される食品の品質も向上。

日本食レストランは次の 3 つに分類される。

- ・高級店：日本人調理人がいて、食材も日本から輸入し、国内と変わらない品質の料理を提供
- ・普及型：日本人調理人がおらず、料金が安い
- ・専門店：ラーメン、カレー、焼き鳥店など

3 業態合わせて、2000 年時点で 600 店舗だった、2013 年時点では 1230 店舗（飲食業店のうち 7.7%）。農水産物を輸出するにはかなり大きなマーケットになっており、業務用食材としてこれらの店舗に供給するルートを持つ輸入業者との取引がポイントとなる。2 年に 1 回開催されるホテル向けの見本市（HOFEX）などの場を利用してのアピールが効果的。

(2) 小売の構造

①売り上げ構成比（2013 年）

香港の食品小売業は、街市と呼ばれる公設市場（香港内に 76 カ所）とスーパーマーケットがその中心。公設市場は政府または民間が管理しており、安くて新鮮なため多くの人が買い物をし、小売販売額の約 4 割を占める。スーパーマーケットは、時間のない共働き世帯や中産階級以上の家庭が多く利用し、小売販売額の約 6 割を占めるが、Dairy Farm Group と A.S. Watson Co.,Ltd. の 2 社による寡占状態（このセクターの売り上げの 8 割といわれている。）となっている。なお、スーパーを主体とするショッピングモールは 43 カ所となっている。

ちなみに、2014 年 5 月の公設市場における果実・野菜の売上高は 2 億 24 百万香港ドル。

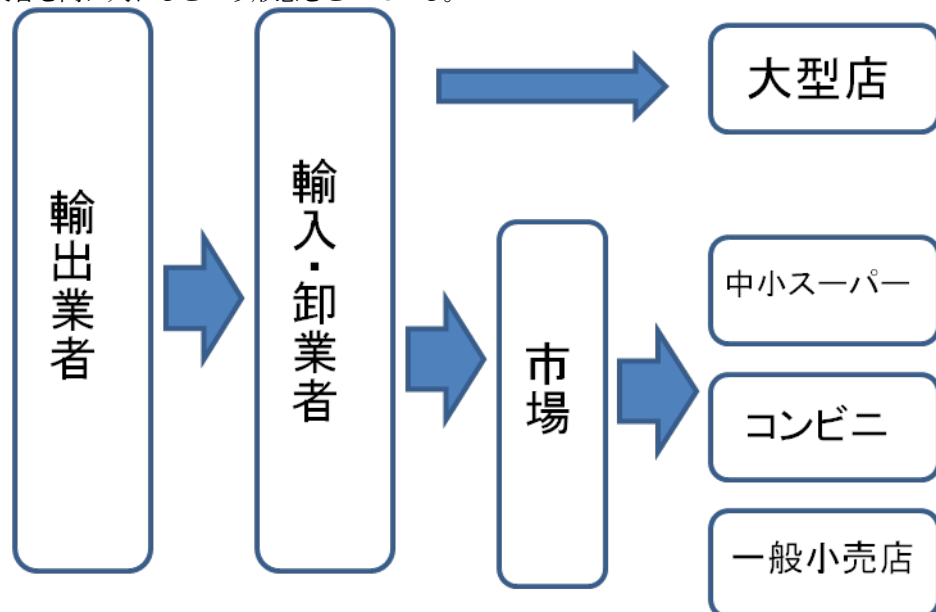
②流通構造

香港は、狭い領域なので市場競争が激しい。一度ルートを決めて商品を流通した場合、ルート変更は困難であるので注意が必要。特に農林水産物の場合、現地の流通問屋が総代理店制をとる場合があり、ブランド化された青果物についてはそういった例が多々見受けられる。いわゆるソールエージェントということで、その流通経路以外では流せない。このため、総代理店制なのかどうか、事前に交渉する必要がある。

香港の主な輸入・卸業者は、それぞれ扱い品目や販売先の得意・不得意があり、全温度帯を扱えない業者もあるため、どの流通ルートを使うのかを検討することが必要。現地輸入商社の販売先は、果実卸売市場）経由による小売店への納入、大型小売店の場合には直納、レストランへの直納が行われている。

輸入・卸業者のルートを使わない手法では、小売店やレストランへの直接販売という方法もあり、再加工が必要なものの（単価を抑えるためのカットフルーツでの供給・販売）の輸出では、このような流通形態をとることも一つの選択肢。

日本からの果実の輸入では、そのほとんどを現地輸入商社が取り扱う。これらの商社は、JA または輸出商社経由で仕入れを行っており、国内の特定の産地と直接取引を行う事例は少ない。高級な日本食レストランの場合も、品質を担保するため発注は産地指定を行うことが多いが、輸送コスト低減のため輸送手段は現地事業者の扱う輸送コンテナを利用することから、輸入業者を間に入れるという形態をとっている。



③日系小売店の進出経過と現状

日系小売店は、60年代の日本企業の進出を背景に大丸百貨店が進出。80年代には、伊勢丹、三越、松坂屋が進出。80年代中盤にヤオハン、ユニー、ジャスコ、西友、西武百貨店がオープン。これらの量販店は先行する大丸と同じく食品スーパーを併設し、日本企業の駐在員のみならず、地元富裕層、欧米居住者などに日本食を中心とする商売を行い、日本食が浸透。

その後、アジア通貨危機が起こり、地元資本への売却等により、事実上日本の百貨店がなくなり、食品扱いのある日系資本の小売店は、ユニー（3店舗）、イオン（ジャスコから商号を変更、9店舗）のみとなった。

3. 日本産果実に関する意見

(1) 市場の特徴

野菜・果物に対する香港人のカルチャーはカット物を嫌うことにある。ダメージを受けた物の一部を除外して出していると考えられる。従ってカットフルーツは受け入れられない。丸ごとで食べ頃（鮮度よく）の物を提供することが成功の鍵。

現在の購買の主体は、自分のために買っている者中心。贈答用としての物も需要があるが、圧倒的に自家消費の量が多い。他国産（店頭での販売価格は58HKD/パック、特売では5HKD/個）に比べてちょっと高いが・・・というところに大きな需要がある。

香港の消費者の嗜好に合わせる事が大切。市場調査を行って、需要に合わせた物（粒が大きい、香りが良い、丸ごと食べられる、甘い、口当たりが良い）を提供しないと受け入れられない。毎年言っているのだが「LLサイズのりんご」がなぜ香港向けに用意されないのか不思議。福島の黄桃は「堅くてなめらか」と好評だった。一方、「酸味」のある果物はだめ、従って「ピオーネ」は無理。昨年販売された「きよみ」は受け入れられなかった。11度のトマトでも酸っぱいとの評価をする。

(2) マーケット戦略と今後期待したい果実製品

アメリカやチリの戦略と同様、「日本産果実」のマーケットを維持するという発想が必要。実力はこんな物ではない。もっとやれることがある。

日本産果実は安心・安全なプレミアム商品という評価は崩れつつある。安心・安全な商品と位置づけられている「オーガニック製品」が極端に少なく、この分野の需要に他国産が進出している。

高級品を強調するために不可欠なブランド戦略に必要な「商標権」の取得が遅れているのが課題。こういうブランドだとのプロモーションが必要。「ゆるキャラ」はいいプロモーション手段。

今後期待したい果実製品については、形、大きさが規格外である物の再利用、現在捨てている物を日本の技術を使って加工し保存性を高めたもの（例えば、摘果した若桃を加工して、丸ごと砂糖漬けにした物）、輸出向けの小さな「みかん」のロット化といったような発想が必要。

「きんかん」は、喉、肺を潤させ風邪対策になるとの漢方的な考え方が浸透しており、出回る時期が合えば爆発的にヒットする。一方、「かき」は韓国産の物との競争になる。

シルバー向けの食品は売っていない。ユニバーサルデザインの果実加工品を提供出来れば一人勝ちになる。ヒントは、中華料理。ゼリーのような滑らかさがキーワード。

(3) 日本産果実の市場拡大のためになすべきこと

今後の市場拡大のためになすべきことを整理すると次の4つとなる。

①香港市場重視の姿勢と安定供給体制作り

平成19年度農林水産物貿易円滑化推進事業の報告書で指摘されているように、国内産地の概況や果実種類別に輸出可能な数量、次期、価格水準などに関する年間計画などの提供が出来る「情報拠点作りが必要」である。今回の調査でも、SOGOの果実担当者からメールで、日本産果実の情報が欲しいとの要請があったことから、当協会のホームページの紹介を行った。

②流通チャンネルを担う企業との密な情報交換

輸入商社が流通に不可欠であることから、これらの流通企業からのクレーム等の問題の投げかけに対し積極的に向き合うことが付加欠。出荷果実の食べ頃の表示を行うことによる流通経路内での問題の未然防止などがあげられる。

③流通チャンネルの拡大

中流層に拡大していくためには、多店舗展開型の地場スーパーマーケットなどでの取り扱いの拡大が必要。このため、商品の供給の安定化、高級品に限定しない中級品の供給の拡大、積極的なプロモーション、日本果実フェアの実施などを図ることを通して、富裕層ばかりでなく幅広い層に浸透することを促していくことが必要。

④農産物専門の現地営業拠点の活用

国内輸出産地が現地市場の商慣習や動向に関する理解を高めるため現地輸入商社との緻密なコンタクトを行う情報交流・収集拠点としてジェトロ香港事務所に設置されている「農林水産・食品コーディネーター」を活用して、現地企業との相互理解を高める必要がある。

4. アジアフルーツ・コンGRESS

アジア・フルーツコンGRESSは、果実加工品を含むアジア地域での果実マーケットに関する各輸入業者等の動向などについて情報交換を目的として開催される会議で、Global Produce Events(メッセ・ベルリン社、フルーツネット社)共催で2009年から毎年開催回されている。第6回大会が香港のアジア・ワールド・エキスポで平成26年9月2日に開催され、32カ国、173社が出席した。これにあわせて、果実加工品を含む見本市であるアジアフルーツ・ロジスティカが9月3日～5日の3日間開催され、64カ国、8100人の来場者あった。

アジアフルーツ・ロジスティカへの日本からの出店は、京都卸売市場（初）、青森りんご（2回目）、トキタ種苗（5回目）の3ブース（京都卸売市場のブースは京都市が出店料を支援）。国別のブースが設けられていたのは、米国、ニュージーラ

ンド、オーストラリア、エジプト、南アフリカ、チリ、ペルー、アルゼンチン、エクアドル、イタリア、ベトナムの11カ国。

(1) 会議内容

会議モデレーターのクリス・ホワイト（アジアフルーツ社）の「歓迎挨拶」で、9時に開会され、各講演者による講演、それらについてのフリーディスカッションが行われた。主要講演者と、その内容は次の通り。

①「ブランド戦略」ジェームス・シンチャー（インター・チャイナ共同経営者）

‘20年の中流階層の数は中国1位、米国2位、印3位の見込み。この階層は価格ではなくプレミアムへの需要が大きい。（例 Chu オレンジ、Chu 氏は有名なタバコの育種者）ブランドを選ぶ者が82%、若い母親は離乳食のブランドを選ぶ。ローカルブランドは200~260。

小売でのプロモーションは効果が低く、イベントでの訴求効果が大（ゼスプリ、チキータ）。

マーケットへの参入ポイントは、国際ハイパーマーケット、輸入品スーパー、eコマース。

②「ラテンアメリカがアジアの果実の供給源になれるか」ジュアン・カルロス・リオス（インターコープ・ペルー社）

グループ内に金融分野を有する会社で、小売部門は100店舗のスーパーマーケットを有する。国のGDPの2%、農業分野では28.5%のシェアを有する。30日かかる船輸送から3~4日の航空便を主体に変えた。2.5kgの贈答用に力を入れている。Eコマースを活用。健康が若い人のキーワード。アボガドジュース+牛乳の組合せの浸透に努力中。

また、クリスチアン・カルバジャル（ASOEX、チリ）からは、アボガドとブルーベリーを組み合わせることで通年供給に努力するとの発表があった。

③「インドネシアの市場の動き」カフィ・クルニア（ペカ・コンサルタンツ社、インドネシア）

新中間層が‘20年には2倍以上になる。’12年の果実輸入は14.6億ドル、市場規模は40~50億ドル。果実の輸入の伸びは年率13~15%。マーケットを掴むにはマーケット調査が不可欠。「健康」がキーワード。レモンが昨年10倍売れた。前政権は農民を守るため輸入に対して制限的政策をとりクオーター、ライセンス制度（消費地に近いジャカルタ港を閉鎖）を取ったが、現政権はネゴシヤブルと考える。

④「米国なしの中国における市場形成」ルイス・グエン（北西なし協会、香港）

西洋なしの消費方法の知られていない中国市場でのマーケット形成戦略。ターゲット市場は果物の輸入港である広州、上海と北京。売り込みは貿易ショーで。小売業者向けの「物の取り扱いのセミナーとオンライントレーニング」を昨年から実施。ターゲット市場で、消費者向けのインストア・セールスを実施。赤ちゃん向けのマーケットを意識。

アリババなどを使ってのeコマースを行った。マスコミ報道されるようキックオフにはオレゴン州知事が参加。メディアを使ってコメントが流れるようTVのオンライン・セールスを実施。Good of Fortune キャンペーン（関羽公）を香港で実施。扮装してのマーケット・プロモーション、トラックを借りて道路でのUSA梨ショーを実施。ウェブサイトも設置。

⑤「なしの育種」ブレット・エニス博士（食品・植物研究所、ニュージーランド）

赤い西洋なし品種「ピカ」の育成。市場での状況調査を行い、消費者の「食べやすさ」、流通業者の「取り扱いやすさ」、生産者の「生産性のよいもの」などの要求を満たす、各国向けの品種育成計画を作成。通常の交雑育種を行い「育成樹」を育成する。育成者権はニュージーランドと豪州で取得し、欧州には苗木は出さない。

⑥「印度市場の将来の動き」サミット・サラン（フューチャーグループ、インド）

フューチャーグループはインドの小売トップ企業。インドには2億人の諸費者がありその66%が若年層。果実の輸入の75%がりんご+梨。インドの食品産業規模は2,580億ドルで、’20年には9,000億ドルの見込。輸出は、ココナッツが米国に。輸入のトレンドを見るとりんごの伸びがすごい。今市場シェアを上げるための投資の時期で、価格が重要。

⑦「将来の消費者ニーズの動向」ブルー・キャンベル（食品・植物研究所、ニュージーランド）

水供給の限界のため環境の維持が重要となる。都市化が進むことから新ポストハーベスト供給モデル、廃棄物の減少が課題。中国は6億人のインターネットユーザーが居り、オンライン・セールスが48%の増。消費者が忙しくなっており外食が増え、簡単に食べられるものが人気。食事を健康マネージに使っている。今の品種ではないものが求められているので、計画を作って育成・供給する必要がある。

⑧「中国のeコマース」ローレン・チャオ（Tモール&フルーツ・デイ、中国）

当社は’09年に上海で設立されたアリババグループのeコマース社。取扱商品の90%が輸入果実で、そのうちの50%を直接輸入している。’13年にアマゾン・中国社が調査したところ、eコマースの73.3%がモバイル、パソコン利用は28.7%（ラップトップは16.9%）。3ヶ月前にAPP社が調査したところソーシャルネットワークの利用者の67%が女性。

アメリカンチェリーの普及キャンペーンとしてLips change for cherryという投稿サイトを設けたところ、6日で1千万件のヒットがあり、641万人が読んだ。Eat & Share cherries with friendというキャンペーンをしたところ、7

日で30万の応募が有り、20万ケースをプレゼントとして送った。今後、ゼスプリ・オーガニック・プロジェクトを実施することになっている。

E コマースには、透明性、規格化（サイズ、味）、新規性、需要者受するブランドが必要。

(2) アジアフルーツ大賞授賞式

昨年から実施されており、次の3賞が授与された。

「マーケティング・キャンペーン of the Year」

・北西チェリー生産者協会（米国） ・T モール&フルーツ・デイ（中国）

「インポーター of the Year」 ・VACHAMON 社（タイ）

「プロデュース・リテイラー of the Year」 ・NTUC FAIRPRICE（シンガポール）

5. 参考

(1) 調査日程

8月31日（日）羽田発 10:35 (CX543) 香港 14:10 (香港泊)

9月1日（月）JETRO 訪問、日本人商工会議所訪問、情報収集

マーケット調査

(香港泊)

9月2日（火）アジアフルーツ・コンGRESS出席

(香港泊)

9月3日（水）アジアフルーツ・ロジスティカ出席

(香港泊)

9月4日（木）香港発 08:45(CX548) 羽田着 13:55

(2) 出張者

情報部長 藤定 光太郎

(3) 宿泊ホテル

Butterfly on Waterfront Boutique Hotel

94 Connaught Road West, Sheung Wan, Hong Kong

[Tel:\(852\)3559-9988](tel:85235599988)

Fax : (852)3559-9999

www.butterflyhk.com

(4) アジアフルーツ・コンGRESS登録料

4600HKD/人 (アジアフルーツ・ロジスティカ参加料も含む)

約67,353円/人 (1HKD=14.642JPY)

(5) 香港日本人商工会議所

農林水産食品部会員名簿 (部会長 大野雅明 住友商事)

会社名	住所	電話
AEON TOPVALU	Rm. B2, 10/F., Yee St., Lai Chi Kok, Kowloon	2375-6307
味珍味	B1, 8/F., Phase 1, Tsing Yi Ind. Centre, 33 Cheung Tat Rd., Tsing Yi Island, N.T.	2495-1261
味の素	Rm. 2102, Bangkok Bank Bldg., 14-20 Bonham Strand West, Sheung Wan, Hong Kong	2534-2888
エイパス インターナショナル	Unit 02, 26/F., Peninsula Tower, 538 Castle Peak Rd., Kowloon	2328-9039
亜細亜商務教練	Suite 3104-7, 31/F., Central Plaza, 18 Harbour Rd., Hong Kong	9675-4432
高起	Unit 1001, 10/F., Miramar Tower, 132 Nathan Rd., T.S.T., Kowloon	3928-5545
裕利安宜	Suites 403-11, 4/F., Cityplaza 4, 12 Taikoo Wan Rd., Taikoo Shing, Hong Kong	3665-8901
富士施楽（香港）	8/F., Cityplaza 3, 14 Taikoo Wan Rd., Quarry Bay, Hong Kong	2513-2888
福井県香港事務所	Rm. 2311, 23/F., Tower 2, Lippo Centre, 89 Queensway, Hong Kong	2530-0815
福岡県香港事務所	Rm. 2509, 25/F., Bank of America Tower, 12 Harcourt Rd., Hong Kong	2869-9809
語縁企業	Rm. 1304, Blk. A, Jia Lin Hao Ting, 2201 Shennan Zhong Rd., Futian Distric, Shenzhen, CHINA	86-0755-3336-8301
平柳歯科	c/o UMP Dental Centre 15/F., 22 Yee Wo St., Causeway Bay, Hong Kong	2890-3356
百農社国際	Unit A. 10/F., Power Industrial Bldg., 9-15 Wo Heung St., Fotan, Shatin, N.T.	3568-7740
兵庫県香港経済交流事務所	Unit 506, 5/F, Tower 2, Lippo Centre, 89 Queensway, Hong Kong	2110-4570
一蘭香港	5-3-2 Nakasu, Hakata-ku, Fukuoka-shi, Fukuoka-ken 810-0801 Japan	092-282-1111
インテリジェンス香港	Unit 713, Miramar Tower, 132 Nathan Rd., T.S.T., Kowloon	2890-7386

JA 宮崎経済連	Rm. 1210, Level 12, China Minmetals Tower, 79 Chatham Rd., South, T.S.T. Kowloon	3975-2906
JAC RECRUITMENT	12/F., Asia Pacific Centre, 8 Wyndham Street, Central, Hong Kong	2522-6767
日本貿易振興機構	Rm. 4001, Hopewell Centre, 95 Queensway, Hong Kong	2526-4067
香港航運	Rm. 302B-304, 3/F., Tower 1, South Seas Centre, 75 Mody Rd., T.S.T. East, Kowloon	2735-1886
兼松（香港）	Rms. 1806-7, Hopewell Centre, 183 Queen's Rd. East, Wanchai, Hong Kong	2821-6200
KSC 香港	8/F., Gloucester Tower, The Landmark, 15 Queen's Rd., Central, Hong Kong	3589-8899
KDDI 香港	10/F., West, Warwick House, Taikoo Place, 979 King's Rd., Quarry Bay, Hong Kong	2525-6333
キッコーマン	Unit 1505, 248 Queen's Rd., East, Wanchai, Hong Kong	2732-2217
ケー・ピー・エム・ジー	23/F., Hysan Place, 500 Hennessy Rd., Causeway Bay, Hong Kong	2522-6022
久保田米業（香港）	4/F., Ever Gain Bldg., 21-23 Yuen Shun Circuit, Shatin, N.T., Hong Kong	3184-0918
宏利	20/F., The Lee Gardens, 33 Hysan Avenue, Causeway Bay, Hong Kong	2919-3923
丸紅香港華南	20/F., Tower 1, Admiralty Centre, 18 Harcourt Rd., Hong Kong	2861-2922
明治フードマテリア	Unit 816, 8/F., Star House, 3 Salisbury Rd., T.S.T. Kowloon	2735-3305
香港三菱商事	15/F., Admiralty Centre Tower 1, 18 Harcourt Rd., Hong Kong	2529-4381
宮崎県香港事務所	Rm. 1516, Vanta Ind. Centre, 21-33 Tai Lin Pai Rd., Kwai Chung, N.T.	3525-1705
みずほ銀行	17/F., Two Pacific Place, 88 Queensway, Hong Kong	2103-3000
日本食研ホールディングス	Rm. 1001, 10/F., Marina House, 68 Hing Mang St., Shau Kei Wan, Hong Kong	2967-5811
日清食品	9-13 Dai Cheong St., Tai Po Ind. Est., Tai Po, N.T.	3406-6888
NNA HONG KONG	Unit 401, Kwai Hung Holdings Centre, 89 King's Rd., North Point, Hong Kong	2802-6303
農林中央金庫	34/F., Edinburgh Tower, The Landmark, 15 Queen's Rd., Central, Hong Kong	2868-2839
パソナ アジア	Unit 01, 12A/F., One Peking, 1 Peking Rd., T.S.T., Kowloon	2882-3484
プリンシパル トラスト	27/F, Hopewell Centre, 183 Queen's Rd., East, Hong Kong	2263-0322
英国保誠保険	25/F., One Exchange Square, Central, Hong Kong	2977-3888
QEE TECHNOLOGY	2405, Windsor House, 311 Gloucester Rd., Causeway Bay, Hong Kong	3185-1516
RGF HR エージェンツ	Suite 613, Tower Two, Lippo Centre, 89 Queensway, Central, Hong Kong	2537-2557
日本国佐賀県政府香港事務所	Rm. 1005, 10/F., Central Bldg., 1-3 Pedder St., Central, Hong Kong	3975-2846
SARAYA HONG KONG	Rm. 1701, 17/F., Olympia Plaza, 243-255 King's Rd., North Point, Hong Kong	2815-3322
思曼特	Unit B, 4/F., Wing Hang Finance Centre, 60 Gloucester Rd., Wan Chai, Hong Kong	2392-0711
双日（香港）	16/F., Harbour Centre, 25 Harbour Rd., Wanchai, Hong Kong	2844-1811
スターツ香港	Unit 1805, Causeway Bay Plaza 2, 463-483 Lochhart Rd., Causeway Bay, Hong Kong	2836-0760
住友商事	23/F., United Centre, 95 Queensway, Hong Kong	2860-9300
帝有限公司	Unit D, 4/F., Roxy Ind. Centre, 58-66, Tai Lin Pai Rd., Kwai Chung, N. T.	2592-8833
テンプスタッフ	11/F., Kailey Tower, 16 Stanley St., Central, Hong Kong	2525-8121
泰昇工程	Suite 401, Tower 1, Silvercord, 30 Canton Rd., T.S.T., Kowloon	2781-4113
三菱東京 UFJ 銀行	8/F., AIA Central, 1 Connaught Rd., Central. Hong Kong	2823-6666
友士（香港）有限公司	Unit D, 22/F., CDW Bldg., 388 Castle Peak Rd., Tsuen Wan. N.T.	2366-3686
維酷公共関係集団国際	Unit 901-2, 9/F, Asia Orient Tower, 33 Lockhart Rd., Wanchai, Hong Kong	2528-5055
山崎麵包	17 Dai Shing St., Tai Po Industrial Estate, Tai Po, N.T.	3657-1111
顔裕龍会計師事務所	1019, Chinachem Golden Plaza, 77 Mody Rd., T.S.T. East, Kowloon	2316-7464
（アドバイザー） 総領事館	46 & 47/F., One Exchange Square, 8 Connaught Place, Central, Hong Kong	2522-1184

イオンの入り口そばの果実売り場



(平日午後3時) 中秋節前の輸入果実特売状況



ワン・チャイ公設市場内の果物専門店



(同様の店が5店入居、その他野菜、水産物、食肉などの専門店が多数入居)

ワン・チャイ公設市場外の果物専門店



(同様の店が近辺のビルの1階に3店入居、店の規模は公設市場内の店の倍～3倍)

店の隣での中秋節用果物籠づくり



果物籠の配達状況

ワン・チャイ公設市場外の果物専門店②



kongress 会議会場風景



ペルー農業大臣による挨拶



通訳はジュアン・カルロス・リオス（インターコープ・ペルー社）

ロジスティカの会場入り口



京都卸売市場のブース



京都市がブースの出展料を助成

青森りんごのブース



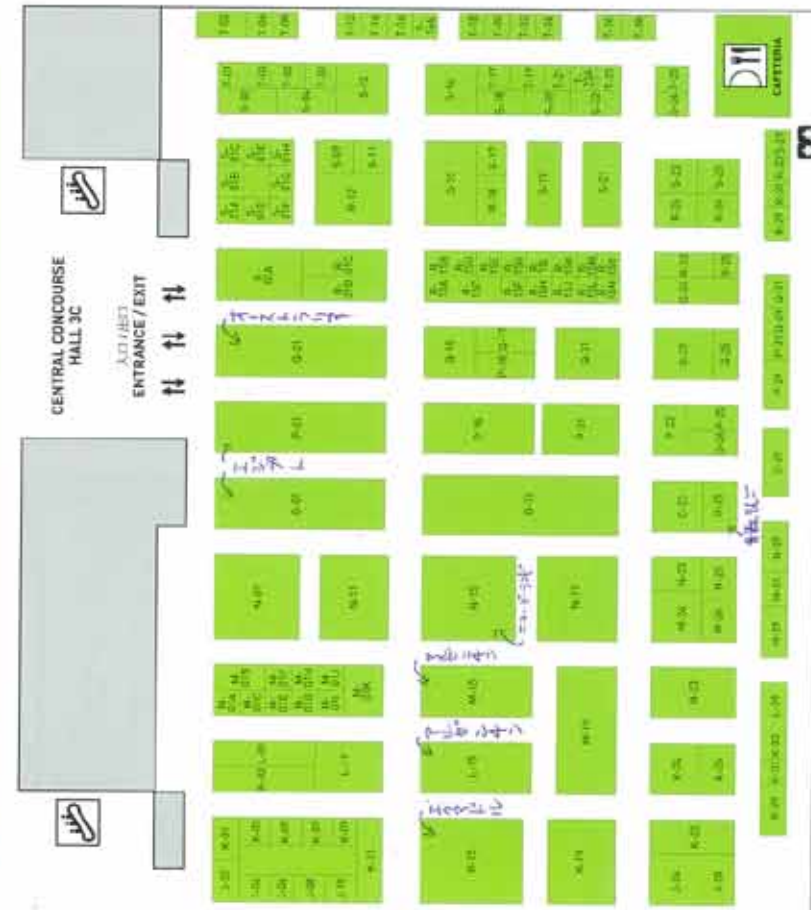
ニュージーランドのブース



INDEX OF EXHIBITORS BY STAND NUMBER



COMPANY	COUNTRY	COMPANY	COUNTRY
9-23 Carlyle Inc. Lexington Co., Ltd.	Taiwan	16-11 Meda e Bita - Compagnie Italiana Meda Frutta S.p.A.	Italy
9-23 CMA 2304	France	16-12 Waukena SpA	Italy
9-24 WPH Marketing Res. Pte Ltd	Singapore	16-13 Matsumoto	Italy
9-24A Neat A International	India	16-15 Saint Union	Italy
9-25 Sactel International ABE	UK	16-16 BPO S. G. S. S.p.A.	Italy
9-25 Sonitex-System International, LLC	USA	16-17 APC S. G. S. S.p.A.	Italy
9-25 Langhin-Hauschke Fruit & Veg. Co., Ltd.	China	16-18 W. Uno S.p.A.	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-19 W. Brömmers H&L	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-20 Spagnola Frutticola S. R.l.	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-21 W. Uno S.p.A.	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-22 W. Uno S.p.A.	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-23 AgriPro Farms, L.A.	Spain
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-24 AgriPro Farms, L.A.	Spain
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-25 ConserVas, S.L.	Spain
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-26 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-27 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-28 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-29 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-30 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-31 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-32 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-33 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-34 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-35 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-36 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-37 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-38 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-39 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-40 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-41 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-42 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-43 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-44 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-45 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-46 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-47 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-48 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-49 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-50 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-51 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-52 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-53 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-54 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-55 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-56 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-57 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-58 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-59 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-60 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-61 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-62 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-63 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-64 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-65 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-66 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-67 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-68 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-69 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-70 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-71 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-72 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-73 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-74 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-75 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-76 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-77 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-78 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-79 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-80 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-81 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-82 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-83 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-84 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-85 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-86 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-87 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-88 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-89 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-90 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-91 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-92 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-93 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-94 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-95 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-96 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-97 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-98 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-99 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy
9-26 Georg. Sauer Equipment	New Zealand	16-100 Costa Cereali Line Agreements Limited	Italy



COMPANY		COUNTRY
1.618	Kingway Science Packaging Co., Ltd.	China
1.619	Longer Technology Group	China
1.620	Longer Technology Co., Ltd.	China
1.621	Brink van Leeuwen Co., Ltd.	China
1.622	Apollon Alloys S.A.	China
1.623	Compass	China
1.624	Dezhou Tiegong SMC	China
1.625	Shanghai SMC	China
1.626	Shanghai SMC	China
1.627	Shanghai SMC	China
1.628	Shanghai SMC	China
1.629	Shanghai SMC	China
1.630	Shanghai SMC	China
1.631	Shanghai SMC	China
1.632	Shanghai SMC	China
1.633	Shanghai SMC	China
1.634	Shanghai SMC	China
1.635	Shanghai SMC	China
1.636	Shanghai SMC	China
1.637	Shanghai SMC	China
1.638	Shanghai SMC	China
1.639	Shanghai SMC	China
1.640	Shanghai SMC	China
1.641	Shanghai SMC	China
1.642	Shanghai SMC	China
1.643	Shanghai SMC	China
1.644	Shanghai SMC	China
1.645	Shanghai SMC	China
1.646	Shanghai SMC	China
1.647	Shanghai SMC	China
1.648	Shanghai SMC	China
1.649	Shanghai SMC	China
1.650	Shanghai SMC	China
1.651	Shanghai SMC	China
1.652	Shanghai SMC	China
1.653	Shanghai SMC	China
1.654	Shanghai SMC	China
1.655	Shanghai SMC	China
1.656	Shanghai SMC	China
1.657	Shanghai SMC	China
1.658	Shanghai SMC	China
1.659	Shanghai SMC	China
1.660	Shanghai SMC	China
1.661	Shanghai SMC	China
1.662	Shanghai SMC	China
1.663	Shanghai SMC	China
1.664	Shanghai SMC	China
1.665	Shanghai SMC	China
1.666	Shanghai SMC	China
1.667	Shanghai SMC	China
1.668	Shanghai SMC	China
1.669	Shanghai SMC	China
1.670	Shanghai SMC	China
1.671	Shanghai SMC	China
1.672	Shanghai SMC	China
1.673	Shanghai SMC	China
1.674	Shanghai SMC	China
1.675	Shanghai SMC	China
1.676	Shanghai SMC	China
1.677	Shanghai SMC	China
1.678	Shanghai SMC	China
1.679	Shanghai SMC	China
1.680	Shanghai SMC	China
1.681	Shanghai SMC	China
1.682	Shanghai SMC	China
1.683	Shanghai SMC	China
1.684	Shanghai SMC	China
1.685	Shanghai SMC	China
1.686	Shanghai SMC	China
1.687	Shanghai SMC	China
1.688	Shanghai SMC	China
1.689	Shanghai SMC	China
1.690	Shanghai SMC	China
1.691	Shanghai SMC	China
1.692	Shanghai SMC	China
1.693	Shanghai SMC	China
1.694	Shanghai SMC	China
1.695	Shanghai SMC	China
1.696	Shanghai SMC	China
1.697	Shanghai SMC	China
1.698	Shanghai SMC	China
1.699	Shanghai SMC	China
1.700	Shanghai SMC	China
1.701	Shanghai SMC	China
1.702	Shanghai SMC	China
1.703	Shanghai SMC	China
1.704	Shanghai SMC	China
1.705	Shanghai SMC	China
1.706	Shanghai SMC	China
1.707	Shanghai SMC	China
1.708	Shanghai SMC	China
1.709	Shanghai SMC	China
1.710	Shanghai SMC	China
1.711	Shanghai SMC	China
1.712	Shanghai SMC	China
1.713	Shanghai SMC	China
1.714	Shanghai SMC	China
1.715	Shanghai SMC	China
1.716	Shanghai SMC	China
1.717	Shanghai SMC	China
1.718	Shanghai SMC	China
1.719	Shanghai SMC	China
1.720	Shanghai SMC	China
1.721	Shanghai SMC	China
1.722	Shanghai SMC	China
1.723	Shanghai SMC	China
1.724	Shanghai SMC	China
1.725	Shanghai SMC	China
1.726	Shanghai SMC	China
1.727	Shanghai SMC	China
1.728	Shanghai SMC	China
1.729	Shanghai SMC	China
1.730	Shanghai SMC	China
1.731	Shanghai SMC	China
1.732	Shanghai SMC	China
1.733	Shanghai SMC	China
1.734	Shanghai SMC	China
1.735	Shanghai SMC	China
1.736	Shanghai SMC	China
1.737	Shanghai SMC	China
1.738	Shanghai SMC	China
1.739	Shanghai SMC	China
1.740	Shanghai SMC	China
1.741	Shanghai SMC	China
1.742	Shanghai SMC	China
1.743	Shanghai SMC	China
1.744	Shanghai SMC	China
1.745	Shanghai SMC	China
1.746	Shanghai SMC	China
1.747	Shanghai SMC	China

SOGO の中秋節の贈答用果物籠 (1 HKD=14.6 円)

中秋禮之選

Mid-Autumn

GOURMET CATALOGUE

B2/F FRESHMART
6/8-8/9/2014

崇光VISA白金卡卡戶及SOGO CLUB會員
尊享禮籃訂購95折優惠

為慶祝中秋佳節，崇光特意搜羅多款中秋禮籃，
讓您細意挑選佳節賀禮，與摯愛親朋一起分享
中秋的喜悅。

(HKD \$)

H1 秋影明月(大) \$1,188

- *日本富士蘋果1個
- *日本巨峰提子2盒
- *日本20世紀水晶梨2個
- *日本陸奧蘋果2個
- *日本富士蘋果2個
- *日本奉水梨2個
- *日本溫室蜜柑1盒
- *夏威夷木瓜2個
- *泰國金柚1個
- *新奇士橙2個
- *楊桃2個

H2 秋影明月(中) \$988

- *日本巨峰提子2盒
- *日本20世紀水晶梨2個
- *日本陸奧蘋果2個
- *日本富士蘋果2個
- *泰國金柚1個
- *日本奉水梨2個
- *溫室蜜柑1盒
- *新奇士橙2個
- *楊桃2個
- *夏威夷木瓜1個

H3 秋影明月(小) \$788

- *日本巨峰提子1盒
- *日本富士蘋果2個
- *日本奉水梨2個
- *日本20世紀水晶梨2個
- *泰國金柚1個
- *楊桃2個
- *新奇士橙2個
- *芒果2個
- *紅提子1盒

H4 月映明珠 \$2,488

- *大頭蝦乾5雙裝+仁德蟹片餅
- *寶雲野山菜味干片80g
- *寶雲野山菜絲麵禮盒
- *陳錦標蓮心綠豆魚翅禮盒(2隻)
- *大頭蝦乾5雙裝+仁德蟹片餅XO醬
- *南北行日本京谷5元日環魚300g
- *蘇杭五皮茶杯及立派特級烏龍禮盒
- *Morozoff原裝牛奶
- *手伴罐裝咖啡
- *中央村夏升海苔包
- *廣吉元南白糯米酒1個
- *特級冬菇禮盒200g
- *李經炎林曉紅玉補果汁(HCL)
- *之膳1999年五加皮酒720ml
- *加送\$500和三款禮券

H5 月滿佳人 \$1,888

- *奇華雙美白蘭地月餅(4個裝)
- *聯珍樓蓮心綠豆魚翅禮盒(2隻)
- *大頭蝦乾5雙裝+仁德蟹片餅
- *南北行特級花膠220g+
- *花膠38g+蝦片75g禮盒
- *寶雲野山菜絲麵禮盒
- *德國鐵錫片從來古力大檸檬
- *Morozoff原裝牛奶150g
- *中田純純純酒500ml
- *神戶產月堂白梅燒酒2個
- *聯珍樓八爪魚鮮禮盒
- *聯珍樓山茶油(約100g)
- *美國安樂牌咖啡三蘇汁
- *法國紅酒
- *加送\$500和三款禮券

H6 中秋祈願 \$1,388

- *奇華雙美白蘭地月餅(4個裝)
- *聯珍樓蓮心綠豆魚翅禮盒(2隻)
- *大頭蝦乾5雙裝+仁德蟹片餅
- *南北行特級花膠220g+
- *花膠38g+蝦片75g禮盒
- *寶雲野山菜絲麵禮盒
- *德國鐵錫片從來古力大檸檬
- *Morozoff原裝牛奶150g
- *中田純純純酒500ml
- *神戶產月堂白梅燒酒2個
- *聯珍樓八爪魚鮮禮盒
- *聯珍樓山茶油(約100g)
- *美國安樂牌咖啡三蘇汁
- *法國紅酒
- *加送\$500和三款禮券

H7 花好月圓 \$988

- *奇華雙美白蘭地月餅(4個裝)
- *大頭蝦乾5雙裝+仁德蟹片餅
- *南北行特級花膠220g+
- *花膠38g+蝦片75g禮盒
- *寶雲野山菜絲麵禮盒
- *德國鐵錫片從來古力大檸檬
- *Morozoff原裝牛奶150g
- *中田純純純酒500ml
- *神戶產月堂白梅燒酒2個
- *聯珍樓八爪魚鮮禮盒
- *聯珍樓山茶油(約100g)
- *美國安樂牌咖啡三蘇汁
- *法國紅酒
- *加送\$500和三款禮券

H8 秋月玲瓏 \$738

- *奇華雙美白蘭地月餅(4個裝)
- *大頭蝦乾5雙裝+仁德蟹片餅
- *南北行特級花膠220g+
- *花膠38g+蝦片75g禮盒
- *寶雲野山菜絲麵禮盒
- *德國鐵錫片從來古力大檸檬
- *Morozoff原裝牛奶150g
- *中田純純純酒500ml
- *神戶產月堂白梅燒酒2個
- *聯珍樓八爪魚鮮禮盒
- *聯珍樓山茶油(約100g)
- *美國安樂牌咖啡三蘇汁
- *法國紅酒
- *加送\$500和三款禮券

